

國立政治大學日本語文學系

碩士學士論文

日語形容詞” omoi” 的語意分析

—包含” omoi”, ” karui” 非對稱性之考察—

指導教授：王淑琴 博士

研究生：黃子綾 撰

中華民國112年7月

国立政治大学日本語文学系

修士学位論文

日語形容詞” omoi” 的語意分析

—包含” omoi” , ” karui” 非對稱性之考察—

形容詞「重い」の意味分析について

—「重い」と「軽い」における非対称性の考察も含めて—

指導教授：王淑琴 博士

研究生：黄子綾 撰

中華民國112年7月

謝辞

本論文の作成にあたって、多くの方にご助力を頂いた。そのため、ここで
お名前を挙げてお礼を伝えたい。

この論文を完成できるのは、まず、丁寧にご指導を頂いた王淑琴先生へ感謝
を述べたい。論文のテーマがまだ決まっていないうちに、多くのご支援を
いただいて、彷徨った私を優しく励ましてくださいました。論文テーマが決
まった後にも、多くのご支援とご意見をいただいて、道を示し導いてくれて
本当に心から感謝しております。副査の葉秉杰先生、陳世娟先生にはご丁寧
な指導をいただいた。また、国立政治大学にいる修士学生時代に、鄭家瑜先
生、葉秉杰先生、喬曉筠先生から歴史や語学の知識をいただいて、心から感
謝しております。

修士課程への進学について、出身大学である東呉大学の劉怡伶先生から進
学および未来の進路に対し、多くのご助言をいただき、温かく励ましてくだ
さって心から深く感謝しております。また、東呉大学にいる大学学部時代
に、葉懿萱先生、黃智暉先生、賴雲莊先生、山本卓司先生、城戸康成先生か
ら多くのご指導やご支援をいただいて、心から感謝しております。

政治大学にいる三年間、授業に関して勉強したり、お互いに論文のことを
議論したりして、それ以外の時間も楽しく過ごした陳旻暄さん、黃子昕さ
ん、林敬憲さんに感謝します。

学校以外、日常生活にいつも優しく支えてくれて、見守ってくれた友
人の葉婷文さん、江雅婷さん、黃喬羽さん、詹銘仁さんに感謝します。

振興病院の林孝義先生の治療のおかげで、体調がよくなり、無事に論文の
完成ができて心から感謝しております。

最後に、いつも支えてくれて、温かい目で見守ってくれた家族へ感謝を述
べたい。母の鄭筑予、父の黃聖荃は最高の両親であり最高の友人でもあり、
最も重要な私の心の支えであります。言葉ではうまく感謝を言い表せませ
ん。とりあえず、ありがとうございます。また、いつもそばにいてくれた弟
の黃柏仁、猫の阿寶へ心から感謝します。

摘要

本研究以日語形容詞「重い」(omoi)為主要考察對象，以認知語言學的方式分析其語意。並以認知語言學的理论メタファー、メトニミー、スキーマ關係、フレーム關係等考察語意間的擴張關係。認為理解語意跟語意間的關係，也是另一種學習語言的重要方式之一。

眾所皆知，日語形容詞「軽い」(karui)作為「重い」(omoi)的反義語。但經考察發現兩邊的語義其實有不對襯之關係，甚至連共起的名詞、動詞也有差別。所以本研究也考察了「軽い」(karui)的語意，並將其與「重い」(omoi)的語意做對比研究，發現兩者不對襯的語義及不同的共起名詞、動詞等，將其作了分類，並對其中一些不對襯的關係和不相同的共起名詞、動詞做了探討。

關鍵字：日語、日語形容詞、認知語言學、語意分析、非對稱性



要約

本研究は、形容詞「重い」を主な考察対象として、認知言語学でその意味分析を行う。認知言語学の理論であるメタファー、メトニミー、スキーマ関係、フレーム関係を利用し、意味間の関連性を考察する。それによって、意味用法自体だけでなく、意味間の関連性を理解することにより、形容詞「重い」への認識を深めると考える。

形容詞「軽い」は形容詞「重い」の対義語として見られている。しかし、考察によって、両方是对義語としても非対称的な部分があって、共起する名詞や動詞も異なるところがある。本研究では、両方の意味分析を行ったあと、非対称的な部分と共起する名詞・動詞が異なるところを分類して検討した。

キーワード：形容詞、「重い」、「軽い」、認知言語学、意味分析、非対称性



目次

謝辞	i
要約	ii
第1章 序論	1
1.1 本研究の目的	1
1.2 本研究が使用する言語理論とデータ	2
1.3 本研究の構成	3
第2章 先行研究と問題点	4
2.1 はじめに	4
2.2 楊(2012)	4
2.3 李(2020)	6
2.4 まとめ	7
第3章 本研究が使用する理論	8
3.1 はじめに	8
3.2 プロトタイプの意味(中心義)の定義	8
3.3 認知能力が基盤となる概念	9
3.4 放射状ネットワークモデル	10
3.5 スキーマ関係	12
3.6 フレームと多義語の意味	13
第4章 「重い」の意味分類及び複数の意味間の相互関係	16
4.1 はじめに	16
4.2 「重い」の意味用法	16
4.2.1 連体修飾用法・述語用法における「重い」の意味用法	16
4.2.2 連用修飾用法における「重い」の意味用法	30
4.3 「重い」の中心義の検討	33
4.4 連体修飾用法・述語用法における「重い」の意味拡張の検討	34
4.5 連用修飾用法における「重い」の意味拡張の検討	38
4.6 先行研究における問題点の解決	39
第5章 「軽い」の意味考察及び「重い」との非対称性	42

5.1	はじめに.....	42
5.2	「軽い」の意味用法.....	42
5.2.1	連体修飾用法・述語用法における「軽い」の意味用法...	42
5.2.1.1	連体修飾用法・述語用法における「軽い」と「重い」 の比較.....	53
5.2.2	連用修飾用法における「軽い」の意味用法.....	57
5.2.2.1	連用修飾用法における「軽い」と「重い」の比較...	61
5.3	まとめ及び先行研究との接点.....	62
第6章 結論		68
6.1	本研究のまとめ.....	68
6.2	今後の課題.....	72
参考文献		73



第1章 序論

1.1 本研究の目的

本研究の目的は、認知言語学の観点から考察対象とする形容詞「重い」の多義的意味を分析し、その構造を解明することである。また、形容詞「重い」とその対義語である「軽い」との非対称的な部分も考察対象とする。

形容詞「重い」は多義語として、私たちの生活でよく使われている。例えば、(1)～(4)の用例では、例(1)の「重い」は「重量が多い」、例(2)の「重い」は「病気の程度が深刻である」、例(3)の「重い」は「負担や責任が多い」、例(4)の「重い」は「落ち込むような雰囲気」、それぞれ異なる意味を持っている。

- (1) 重い荷物を背負って疲れはてていたけれども、周囲の山々の息をのむ美しさを眺める余裕は、かろうじて残っていた。(ユン・チアン 1993『ワイルド・スワン』)
- (2) そして、乳癌という重い病気を背負いながら、奔放に生きた一人の女性に、ひどく心を引かれました。(柳澤桂子 2002『やがて幸福の糧になる』)
- (3) 政府の支出には古来いつも軍事費が重い負担となる。(佐伯富ほか 1993『宮崎市定全集』)
- (4) これほどまでに重い空気に包まれた会議は初めてだった。(山崎敬之 2005『テレビアニメ魂』)

しかし、多義語の意味を解明するには、個々の意味を記述するだけでなく、多義語の複数の意味の間にどのような関連性があるかについて、意味間の関連付けを探ることも重要であると考えられる。それを明らかにするには、認知言語学の立場から考察することが有効であると思われる。

池上・山梨(2020)は、認知言語学は、言葉の感性的、身体的な側面に関わる能力、さらにこの種の能力を含む包括的な認知能力に関わる要因を言葉現象の記述・説明の基盤とするアプローチをとると述べている。また、松本(2003)は、認知言語学では、語の意味がどうしてそのような構造をもつのかについて、認知能力に基づいて意味に関連付けを求めると述べている。その

ため、本稿では、認知言語学の理論を利用して、考察対象である形容詞「重い」の複数の意味を検討し、その意味間の関連性を解明することを目指す。

また、形容詞「重い」の対義語は「軽い」と認められているが、次の(5)～(7)の例の「軽い運動」「軽い態度」「軽いめまい」はあるが、その反対表現とされる「重い運動」「重い態度」「重いめまい」とは言わない。つまり、形容詞「重い」と「軽い」は対義語として認められるが、実は非対称性が存在していることがわかる。

(5) 軽い運動をして汗をかこう。(作例)

(6) 軽い態度で冗談を言いながら酒を飲む。(作例)

(7) ベットから降りたときに軽いめまいがした。(作例)

そのため、本稿では、「重い」の対義語「軽い」の意味を検討し、「重い」との非対称的な部分を明らかにすることも一つの目的とする。

1.2 本研究が使用する言語理論とデータ

本稿は、形容詞「重い」の意味記述と複数の意味間の関連性を解明するために、認知言語学の理論的方法を使用する。また、認知言語学の観点から「重い」の意味を記述するため、用例の収集方法は特に限定されていない。本稿の場合、実例を使用することを原則とし、主に BCCWJ やインターネットからとった用例を使用する。

糸山(2021)は多義語について、その複数の意味に関連性があると認めるとしている。また、多義語分析の課題として、複数の意味を考察するほかに、複数の意味の中で最も基本的な意味をプロトタイプの意味(中心義)を認定し、さらに、複数の意味間の関連性を解明するには、認知能力を基盤とするメタファー、メトニミー、シネクドキーが重要な役割を果たしていると述べている。

そのため、本稿では、形容詞「重い」の複数の意味を検討し、その複数の意味のプロトタイプの意味を考察し、メタファー、メトニミー、シネクドキーを利用して、意味と意味の間の関連性を考察する。なお、メタファー、メトニミー、シネクドキーのほかに、認知能力を基盤とするスキーマ関係、フレームも使用する。本稿の考察対象である形容詞「重い」の複数の意味を検討したあと、放射状ネットワークモデルによってその多義構造を解明する。

本稿が使用する認知言語学の理論について、第3章で詳しく説明する。

1.3 本研究の構成

本章では、1.1節で形容詞「重い」の意味記述、複数の意味間の関連性、「重い」と「軽い」の非対称性を考察することが目的であることを述べた。1.2節で、本研究が使用する理論を述べた。

次に、2章では、本稿の考察対象である形容詞「重い」の意味用法、「重い」と「軽い」の非対称的部分に関する先行研究と問題点を取り上げる。3章では、本稿で使用する認知言語学の概念を概観し、本稿でどのように使われるかを説明する。4章では、形容詞「重い」の意味記述を検討し、認知言語学で意味間の関連性、拡張関係を考察して放射状ネットワークモデルによってその多義構造を解明する。5章では、形容詞「重い」の対義語となる「軽い」の意味記述を検討して、4章で検討した「重い」の意味記述とどのような非対称的部分があるかについて探る。最後に、6章では、本研究のまとめと今後の課題を述べる。

第2章 先行研究と問題点

2.1 はじめに

本章では、「重い」と「軽い」の意味用法を扱う先行研究の楊(2012)と李(2020)を取りあげ、その記述を概観し、問題点を提出する。

本章の構成について、2.2節と2.3節でそれぞれ楊(2012)、李(2020)の先行研究を概観する。2.4節で、先行研究の問題点を述べる。

2.2 楊(2012)

楊(2012)は森田(1984)の分類法を参考に、共起関係から「軽い」「重い」「轻」「重」の意味を分類し日中対照をしている。その共起関係は名詞との共起関係及び動詞との共起関係があり、以下、楊(2012)の考察結果をそれぞれ表1と表2にまとめた。

表1 名詞との共起関係

		日本語		中国語	
		軽い	重い	轻	重
物理的な重量		○	○	○	○
肉体的な 圧迫感	a) 体への圧迫感	○	○	○	○
	b) 味覚	○	△	×	○
	c) 音	○	○	○	○
	d) 色	○	○	○	○
精神的な 圧迫感	a) 責任、負担	○	○	○	○
	b) 書籍や言葉などの 内容	○	○	×	×
	c) 気持ち	○	○	×	×
	d) 態度	○	○	×	×
物事の 程度	a) 運動、食事、読書	○	×	×	×
	b) 仕事、作業、労働	○	○	○	○
	c) 病気	○	○	○	○
	d) 災害、影響、違反	○	○	○	○
重要性		○	○	○	○

表2 動作との共起関係

	日本語		中国語	
	軽い	重い	轻	重
一般的動作	○	○	○	○
認知、理解など	△	○	△	×
視覚	○	○	○	○
飲食、読書、運動など	○	×	×	×
責任、処罰など	×	○	○	○
作業、料理など	○	×	×	×
話す、言うなど	○	○	○	○
超える、上回る	○	×	×	×

本稿は、「○」「△」「×

楊（2012）は以下の二つの問題点がある。

問題点①：楊が提出した分類に収まらない「重い」の用法があると思われる。例えば、「重い雲」、「空気（物理）が重い」、「データが重い」、「ハンドルが重い」などである。

問題点②：名詞との共起関係における「肉体的な圧迫感」の「体への圧迫感」という分類について、同じ意味用法に分類されているものが、違う意味を表すものがある。例えば、「肩が重い」、「足が重い」、「口が重い」などである。

問題点①について、例えば、「重い雲」における「重い」は「物理的な重量」ではなく、また、「肉体的な圧迫感」「精神的な圧迫感」「物事の程度」とも言えない。「空気(物理)が重い」、「データが重い」、「ハンドルが重い」も楊（2012）の分類に収まらない用法である。

問題点②について、楊（2012）は、「肩が重い」「足が重い」「口が重い」などの「重い」を同じく「体への圧迫感」に分類しているが、「肩が重い」と「足が重い」は「怠い」、「腰が重い」と「足が重い」は「なかなかやる気がない」、「口が重い」は「話が少ない」という意味を表し、それらの表現における「重い」はそれぞれ違う意味を表すと思われる。

以上に提出した二つの問題点により、楊（2012）の「重い」に関する分類を再検討する必要があると思われる。また、楊（2012）は表1の「運動、食

事、読書」の物事の程度、表2の「作業、料理」「超える、上回る」などと共起する場合に「軽い」が用いられるが、「重い」が用いられないという「重い」と「軽い」が対義語としての非対称性があることを指摘している。しかし、「重い」と「軽い」の非対称性は他にもある。例えば、「軽い頭痛」は言えるが「重い頭痛」は言わない、「軽い興奮」は言えるが「重い興奮」は言わない、「軽いノリ」は言えるが「重いノリ」は言わない。このように、「重い」と「軽い」の非対称性について、まだ明らかにされていない部分がある。そのため、「重い」と「軽い」の非対称性も含めて、本研究の一節として考察を行う。

2.3 李(2020)

李(2020)は動作主の身体動作の強さと感受者が感じる痛みの強さという観点から日中対照をしている。力関係を表す日本語と中国語の表現にズレがあることについて、李(2020)は以下の例を挙げている。

- (8) 太郎が次郎を強く殴った。
- (9) 太郎重重地打了次郎。

- (10) 彼に強く殴られ、強い痛みを感じる。
- (11) 我被他重重地打了，疼痛感很强。 (李2020:54)

日本語の場合、第三者が観察できる動作主の動きの強さと、感受者が感じている痛みの強さは同じく「強い」が用いられる。一方、中国語の場合、動作主の動きの強さは“重”が使われるが、感受者が感じた痛みの強さは“強”が使われるとしている。その理由について、李(2020)は次のように述べている。日本語では、「強い」がより五感まで拡張し、中国語では、“重”がより五感まで拡張しやすい。また、日本語は「連続体志向」「無界」的な言語であり、＜ソト＞と＜ウチ＞の感覚が連続しているため、動作主の動きの強さと感受者が感じた力の強さを同じ＜強い＞で表している。一方、中国語は言葉を＜個体もしくは複数個体＞として捉える傾向があるから、＜ソト＞から受けた刺激は＜重＞となり、＜ウチ＞から感じた刺激は＜強＞となる可能性がある」と解釈している。

李(2020)は以上のように、力関係を表す表現における日本語と中国語の違いについて説明しているが、本稿では「重い」と「軽い」の意味分類とその非対称性に焦点を当てて考察を行うため、ここで検討しないとする。李(2020)と本研究との接点は、「重い」と「軽い」の非対称性が見られるとい

う指摘である。日本語では「重く殴る」を使わず、例(8)の「強く殴る」を使うが、その反対表現は「軽く殴る」であると述べている。つまり、「重い」と「軽い」が対義語としての非対称性が見られるのである。しかし、「重い」と「軽い」の非対称性についてそれ以上の説明がなされていないため、本稿では一節を設けて「重い」と「軽い」の非対称性を考察する。

2.4 まとめ

以上で見たように、先行研究の問題点は次のようにまとめられる。

問題点1：楊(2012)が提出した分類法に収まらない「重い」の用法がある。例えば、「重い雲」「データが重い」などの「重い」は楊の分類法のどちらにも入らない。また、同じ意味に分類されても、違う意味を表すものがある。例えば、「肩が重い」「口が重い」などの用例が「体への圧迫感」に分類されているが、それぞれ「怠い」「話が少ない」という意味を表す。そのため、楊(2012)が提出した意味分類を再検討する必要があると思われる。

問題点2：楊(2012)と李(2020)から、「重い」と「軽い」が対義語としての非対称的な部分があることが分かる。例えば、楊(2012)は、「運動、食事、読書」、「作業、料理」「超える、上回る」などと共起する場合には、「軽い」が用いられるが、「重い」が用いられないと述べている。また、李(2020)からも「軽く殴る」の反対表現は「強く殴る」であり、「重く殴る」ではないことが分かる。しかし、「重い」と「軽い」の非対称的な部分について、まだ明らかになっていないものがあるため、「重い」と「軽い」の非対称性を考察する必要があると思われる。

本研究は以上の問題点を解決するために、以下の研究課題を設定する。

課題1：「重い」の意味分類を再検討する

課題2：「重い」と「軽い」の非対称性を考察する

第3章 本研究が使用する理論

3.1 はじめに

本章では、考察対象とする形容詞「重い」の複数の意味間の関連性を解明するのに利用とされる、認知能力を基盤とする諸概念を概観する。

以下では、3.2節で多義語のプロトタイプの意味(中心義)の定義、3.3節で認知能力を基盤とするメタファー、メトニミー、シネクドキーの定義、3.4節で多義語の複数の意味を統括する構造である放射状ネットワークモデル、3.5節と3.6節で多義語の意味間の関連性を解明するスキーマ理論、フレームの概念を確認する。

3.2 プロトタイプの意味(中心義)の定義

池上(1975)は、空間における具体的なものと抽象的なものに関する表現の関係について、次のように述べている。

……もう一つは本来は空間における具体的に目で見ることができような存在、運動を表わす表現を抽象的な(したがってもちろん目に見えない)存在や変化に対して用いるということである。(中略)空間における具体的な存在や運動は人間の身体的感覚を通じて知覚可能なものであり、一方、抽象的な存在、変化はそのような特徴を欠くものであるということを考え合わせれば、後者の表現の「モデル」として前者の表現形式が利用されるのは十分考えられることと思われる。

(池上1975:244)

また、靱山(1992)は、「より具体的で認知しやすい空間を基本義とする語が、より抽象的な時間表現する際のモデルとして転用されるということは、人間の認知能力という点から見て、自然なことと言えるであろう」と述べている。

空間における具体的なものが、抽象的なものに転用されるということが見られ、それが複数の意味を持つ多義語のプロトタイプの意味を認定する手がかりとなる。4.3節では、池上(1975)や靱山(1992)定義に倣い、多義語の複数の意味のうち、より具体性があるものをプロトタイプの意味として、形容詞「重い」のプロトタイプの意味について検討する。

3.3 認知能力が基盤となる概念

池上・山梨(2020)は、「認知言語学は、言葉の感性的、身体的側面に関わる能力、さらにこの種の能力を含む包括的な認知能力に関わる要因を言語現象の記述・説明の基盤とするアプローチをとる」と述べている。国広(1982)は、「多義語とは、同一の音形に、意味的に何らかの関連をもつ二つ以上の意味が結びついている語を言う」と述べている。そして、認定能力の基盤であるメタファー、メトニミー、シネクドキーは多義語の複数の意味を関連つける方法の一つである。本章では、考察対象とする形容詞「重い」という多義語の複数の意味を関連つける認知能力の概念から説明する。

意味間の相互関係には、認知能力の概念であるメタファー、メトニミー、シネクドキーは重要な役割を全うするが、各概念の定義は靱山(2020)に従い、以下のように示す。

メタファー (隠喩)：二つの事物・概念の何らかの類似性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩。
(靱山2020:103)

メトニミー (換喩)：二つの事物の外界における隣接性、さらに広く二つの事物・概念の思考内・概念上の関連性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩。
(靱山2020:110)

シネクドキー (提喩)：より一般的な意味を持つ形式を用いて、より特殊な意味を表す、あるいは逆に、より特殊な意味を持つ形式を用いて、より一般的な意味を表すという比喩。
(靱山2020:117)

以下、用例をあげてそれぞれの概念について確認し、靱山(2020)に基づき、多義語の複数の意味間の関係を示す方法を説明する。

(12) 私は、金槌なんです。(靱山2020:97)

(13) あの選手は黒帯だ。(靱山2020:104)

(14) お茶にしよう。(靱山2020:111)

靱山(2020)は、例(12)をメタファーの例として挙げている。(12)の用法について、本来の意味が<釘などを打ち付けるための大工道具>である「金槌」が、<泳げない人>という意味になった用法である。それがメタファーという比喩表現に基づいたからであるとしている。Gibbs(1994)、Boroditsky(2000)はメタファーという比喩表現について、起点領域における

経験が目標領域への特定の写像の選択をプライムすると述べている。例えば、「議論は戦争である」という文において、「議論」と「戦争」という二つの概念領域があり、一方の概念構造の一部を他方へ投射するという写像が使われている。「戦争」という概念のイメージが、議論しているときの状態と類似しているところがあるため、「戦争」で「議論」の意味を表すことが可能である。例(12)の「金槌」は、「泳げない人」と＜水に沈んで浮かない＞というイメージにおける類似性に基づき、「金槌」で「泳げない人」という意味を表すと思われる。

例(13)はメトニミーの例である。メトニミーの定義については、靱山(2020)が指摘したように、二つの物事の隣接性によって一つの事物でもう一つの事物を表すという用法である。例(13)では、「黒帯」を通して「有段者」を指している。有段者は黒帯を締めることから、「有段者」と「黒帯」に空間的な隣接性があり、つまり、メトニミーに基づいて表現している。また、二つの物事の隣接性について、Lakoff and Johnson(1980)は「製作者と製品」「部品とその使用者」「コントロールする者とコントロールされるもの」「機関と責任者」「場所とそこにする機関」「場所とそこで起きた出来事」「部分と全体」などの隣接関係、山梨(1988)は「容器と内容」「主と従」「主体と手段」「原因と結果」などの隣接関係を提案されている。

例(14)はシネクドキーの例である。シネクドキーについて、靱山(2020)は、一般的な意味で特殊な意味を表す、あるいは特殊な意味で一般的な意味を表す関係であると述べている。また、佐藤(1978)は、シネクドキーについて、「範疇関係」「包摂関係」「上下関係」などカテゴリー関係に基づく比喩であると説明している。山梨(1988)もまた、シネクドキーは「全体と部分」「類と種」などの包摂関係であると述べている。例(14)の「お茶」は本来＜緑茶＞という意味であるが、包摂関係でお茶の一種類である＜緑茶＞から、＜アルコールを含まない飲み物＞という広い範囲のものを指すようになった。

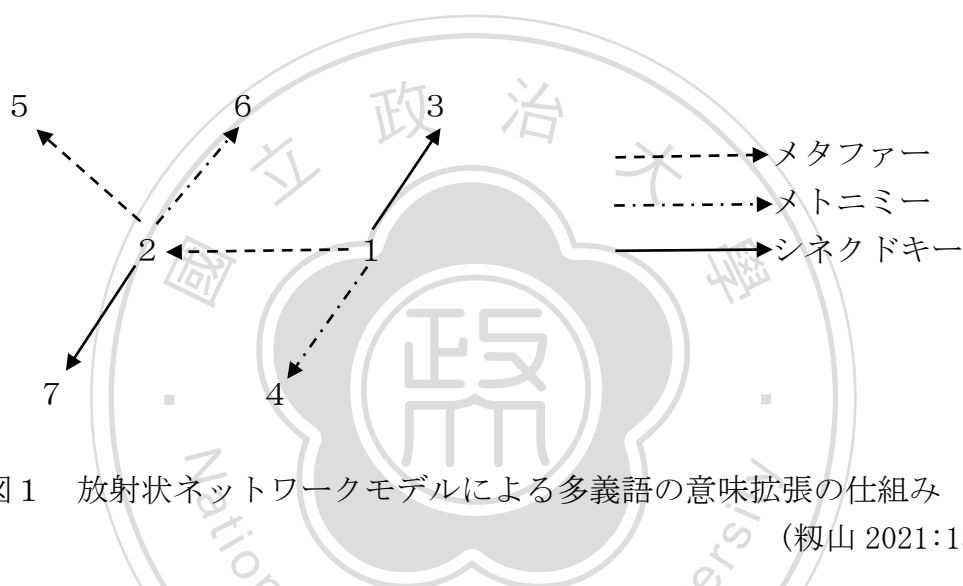
このように、言語行為の中に比喩表現が遍在している。それらの比喩表現が人の認知活動と大きく関わり、言語の認知基礎となっている。そのため、多義語の意味の関連性を説明・記述するのに有効であると思われる、本稿では、認知言語学 concepts を利用して形容詞「重い」の多義性を検討する。

3.4 放射状ネットワークモデル

靱山(2021)は多義語の課題について、多義語の複数の意味を統括するモデ

ル・枠組みの解明も一つ重要なポイントとし、複数の意味の間の関係を明示する一つの方法である「放射状ネットワークモデル」を取り上げている。

靱山(2021)は、「放射状ネットワークモデル」について、多義語の複数の意味にプロトタイプの意味が認定されていることを前提として、そのプロトタイプの意味から他の意味にどのような拡張をしているか、どのような関連を持っているかを明示する仕組みである。その中で、認定能力を基盤とするメタファー、メトニミー、シネクドキーという比喻表現が重要な役割を全う。また、多義語の複数の意味の拡張であるが、プロトタイプの意味から直接拡張するものに限らず、(多義語の複数のほかの意味)から拡張する場合もあるとしている。



靱山(2021)は放射状ネットワークモデルに基づいて、「タマゴ」という多義語を挙げて説明している。以下では、靱山(2021)があげた分析例を見る。

意味(1): <鳥、魚、虫等のメスが産む球型に近いもの> (<タマゴ一般>)

意味(2): <鶏卵>

意味(3): <鶏卵で作った料理>

意味(4): <一人前になる前の段階の人>

(靱山 2021:131)

靱山(2021)は、それらの意味はそれぞれ自立性をゆうし、「タマゴ」の複数の意味であるとしている。意味(1)～(4)の関係について確認すると、まず、意味(1)と意味(2)は「類と種」というシネクドキーに基づいたもので、両方ともプロトタイプの意味であると述べている。次に、意味(3)は意味(2)

から拡張されたものである。意味(2)の<鶏卵>と意味(3)の<鶏卵で作った料理>は、「料理の食材」と「料理」という隣接性があるため、メトニミーに基づくものである。最後に、意味(4)は意味(1)及び意味(2)から拡張されたものである。意味(4)の<一人前になる前の段階の人>は、意味(1)～(2)の<卵>と成長、発展の初段階の<最初の段階にある>という類似性があるため、メタファーに基づいたものであるとしている。

以上のように、「タマゴ」の複数の意味分析(意味1～4)を基にして、構成した放射状ネットワークモデルが以下のように示される。



図2 放射状ネットワークモデルによる「タマゴ」の多義構造(靱山 2021:134)

本稿では、靱山(2021)が提案した「放射状ネットワークモデル」が、多義語の複数の意味の関係付けを図式で明示できると考え、それを利用して本稿の考察対象である「重い」の多義構造を示すことを目指す。

3.5 スキーマ関係

スキーマ関係とは、多義語の二つの意味が、何らかの拡張関係で結びついたものである。この二つの意味が、類似している部分があり、少し異なる部分もある。このような二つの意味から抽出した意味関係がスキーマ関係であると述べている。(靱山 2021)

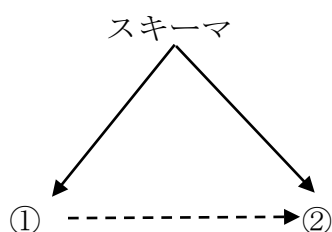


図3 スキーマ関係(靱山2021:156)

「花」を例として挙げると、意味①を「咲いている、人目をひく美しい植

物」、意味②を「人目を引く美しい人」と規定すると、意味①と②の間に、何らかの比喩表現でその関連性を示すことができるが、スキーマを利用して、意味間の類似性や共通点をさらに明示的にすることもできる。この例の場合、「花」の意味①と②のスキーマを「人目を引く美しいもの」と規定できる。

スキーマ関係は、メタファー、シネクドキーと同じく我々人間が日常生活における具体的な体験や経験を通して、ほかの事物を構造化したり、理解したりする一つの方法である。スキーマ関係も多義語の複数の意味の関連性を理解し、解明するのに有効であると思われるので、本稿では形容詞「重い」の複数の意味の関係を解明する一つの方法として使用する。

3.6 フレームと多義語の意味

フレームは、Fillmore (1982, 1985) によって提唱された言語学の概念の一つである。Fillmore (1982) は、「商取引」を例として、「買う」という語を理解するには、「売り手」「買い手」「商品」「金銭」など、それらの対象が組み立てられた背景知識が前提となるとしている。この背景知識は「フレーム」と呼ばれる。「商取引」は一つの「フレーム」であり、「買う」という語は「商取引」というフレームの構成要素の一部である。日常生活の経験を統合した「背景知識」があるため、あるフレームを提示することでその構成要素を想起する。逆に言うと、あるフレームの構成要素である語を提示すれば、フレーム全体にアクセスすることができる。つまり、基本的にあらゆる「内容語」(content words) がフレームを喚起すると想定され、語の意味記述はフレームを含む形でなされる (Fillmore&Baker2010)

野村 (2012) は、フレームについて、「ある概念を理解するのに必要となるような背景的知識構造」と定義し、語はフレームを喚起し、その意味はフレームを背景にして初めて理解されると述べている。

西村 (2008) は、フレームについて、「与えられた言語表現の意味の成立に直接関与する百科事典的な知識のまとまり」と述べている。また、メトニミーは隣接性という認知能力の基盤として、フレームという背景知識の中の異なる局面を繋げることが可能であり、前述したフレームの定義に基づくメトニミーの定義を以下のように提出している (西村 2008)。

メトニミーの定義 (2)

換喩は、ある言語表現の複数の用法が、単一の共有フレームを喚起しつ

つ、そのフレーム内の互いに異なる局面ないし段階を焦点化する現象として定義することができるでしょう。(西村 2008:82)

メトニミーの定義(2)に基づく例文について、西村(2008)がいくつか挙げたが、ここでは一つの例を挙げて説明する。

(15) パイプにゴミが詰まっている。(西村 2008:85)

(16) パイプが詰まっている。(西村 2008 : 85)

この例文について、西村は、例(15)、(16)の「詰まる」は同じく「流体等を通す管が機能できなくなる」というフレームを指しているが、このフレームの中で、例(15)の「詰まる」が<ものの移動停止>を、例(16)の「詰まる」が<管の機能不全>を意味している。例(15)と(16)の「詰まる」がそれぞれ異なるところを焦点化し、前者では移動の主体であるゴミが、後者では状態の主体であるパイプが、それぞれ主語とされる可能性があるという考えである。

また、西村(2008)は、「ある表現の複数の用法間に換喩的な関係がある場合の多くには、このように百科事典的な知識のまとまり(フレーム)全体にアクセスした上で、その異なる局面や段階に焦点を合わせる、という能力が関与していると考えられる」と述べている。このように、メトニミーとフレームの関係の密接性を説明している。

靱山(2021)は形容詞「かたい」を取り上げ、多義語としての意味記述をし、その中の一部の意味で形成するフレームを以下のように提案している。

靱山(2021)はまず、形容詞「かたい」の一部の意味を以下のように定義し、意味①をプロトタイプの意味と認定した。

意味①:<単一の固体が><加えられる力に対して><抵抗感を感じさせるさま>

意味②:<心理的に緊張した状態であるさま>

意味③:<緊張状態等の平常心ではない心理状態が><表情に現れているさま>

意味④:<緊張した心理状態が原因で><動きに滑らかさがないさま>

意味⑤:<緊張状態等の平常心ではない心理状態が><声に現れているさま>

(靱山 2021:166)

意味②は意味①から、因果関係を表すメトニミーに基づいて拡張された。次に、意味③、④、⑤は、いずれも意味②から、同時性を表すメトニミーに基づいて拡張した。靱山(2021)は意味①～⑤の関係は、メトニミーによるものであるとし、この五つの意味を統合するフレームを以下のように示している。(靱山 2021)

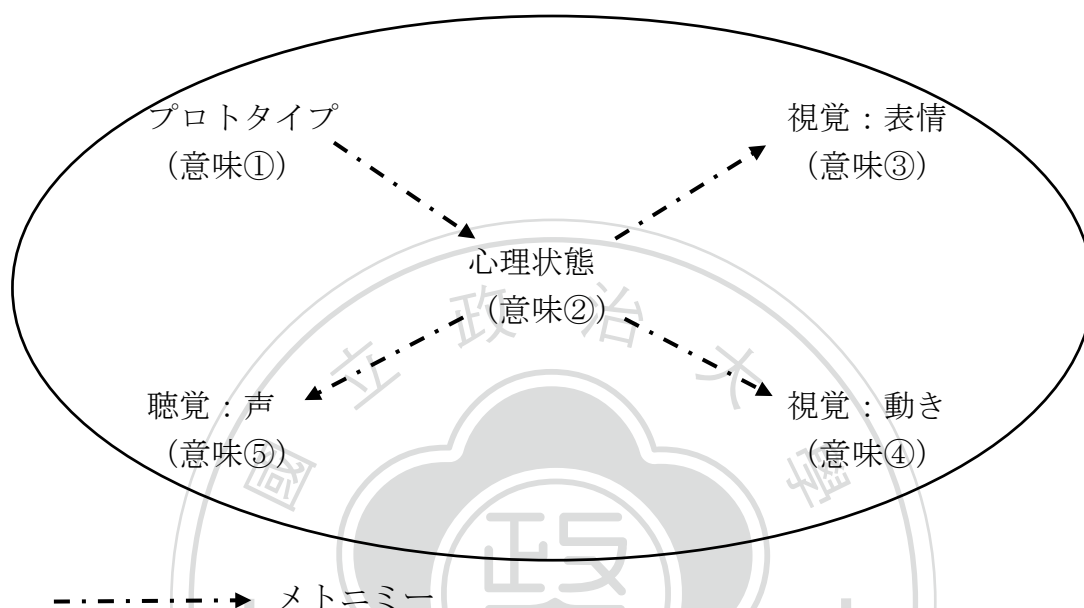


図4 フレームに基づく「かたい」の多義構造(靱山 2021:225)

「緊張状態等の平常心ではない心理状態」のフレーム

「緊張状態等の平常心ではない心理状態」(意味②)の場合、その心理状態の影響で「身体的にかたくなる」(意味①)とともに「動きが滑らかでなくなる」(意味④)、「その心理状態が現れた表情」(意味③)となり、「その心理状態が現れた声」(意味⑤)になる場合がある。(靱山 2021:225)

靱山(2021)は以上のように、「緊張状態等の平常心ではない心理状態」のフレームを構成する意味①～⑤という五つの要素のいずれかを焦点化すると記述することができるとしている

本稿では、フレームという認知能力に基づく概念の一つ、背景知識という認知能力を利用して、考察対象とする形容詞「重い」の複数の意味が何の「フレーム」を生み出すか、その関連性が何なのかについて考察する。

第4章 重いの意味分類及び複数の意味間の相互関係

4.1 はじめに

本稿では、形容詞「重い」を研究対象として、認知言語学の立場から、「重い」の意味分類を検討し、複数の意味間の関係を示す。さらに、「重い」と「軽い」の対義語としての非対称性も本稿の考察対象にする。同じ基準で形容詞「重い」の意味を考察する立場をとるため、「重さ」「重み」などの派生名詞、「重たい」などの派生形容詞、「重んじる」などの派生動詞は語幹が形容詞「重い」と重なるが、本研究の論考の対象から外すことにする。つまり、「重い」だけを考察対象とし、その派生語の「重さ」「重み」「重たい」「重んじる」を考察対象としない。

また、「足が重い」「気が重い」「腰が重い」などの慣用句は、形容詞「重い」が使用されているが、「慣用句は固定されている構成で、構成要素の文法や語彙の知識だけでは理解できない」（森田1966, 宮地1982, 国広1985）という特徴を持つため、慣用句に使われる「重い」を考察対象から除外する。『三省堂故事ことわざ・慣用句辞典』『新解明故事ことわざ辞典』『明鏡ことわざ成句使い方辞典』などの慣用句辞典によって、「足が重い」「腰が重い」「気が重い」「心が重い」「口が重い」などを慣用句とし、それらの慣用句における「重い」を考察対象から外す。

そのため、本稿では、「重い」の連体修飾用法と述語用法を主な考察対象とする。また、「重く+動詞」などの連用修飾用法も一つの対象として、連体修飾用法・述語用法と分けて考察する。以下では、「重い」の連体修飾用法・述語用法と連用修飾用法を、それぞれ4.2.1節と4.2.2節で述べる。「重い」のプロトタイプの意味の定義を4.3節で述べる。なお、考察した「重い」の意味間の関連性は4.4節と4.5節で検討する。最後に、先行研究における問題点の解決を4.6節で述べる。

4.2 「重い」の意味用法

4.2.1 連体修飾用法・述語用法における「重い」の意味用法

本節では、「重い」の連体修飾用法・述語用法における意味を分析する。

意味①<物質の重量を><多く><感じる><さま>

意味①は、具体的な物質の重量が多いことを表す用法である。そのため、共起する名詞は主に実際的に存在し、質量を持っているものである。以下の例に基づいて、物質の重量を表す用法についてみよう。

- (17) ジャンガリアンに比べるとゴールデンは百グラムも体重が重く、エサや水分を摂る量が多いため、ウンチやオシッコの量が多くなるのです。(佐草一優 2000 『ドキドキ！！ハムスターと遊ぼう！』)
- (18) II型超新星となるのは質量が太陽の八倍以上もある重い星。(野本陽代 1998 『宇宙の果てにせまる』)
- (19) 市場広場にゆくと、白い制帽をかぶった数万人くらいの大群衆が出ており、ビールや葡萄酒を飲み、お祭り騒ぎをしている。たぶん「大学祭」だろう。そんな中を重いスーツケースを引っ張って歩すが、道路が石畳なので、スーツケースの小車輪が使えず、三十分間の重労働で汗びっしょりになる。(秋山芳弘 2003 『世界鉄道探検記』)

例(17)では、「重い」が使用される対象に比較対象があることは、文中に確認できる。つまり、ジャンガリアンハムスターに比べて、ゴールデンハムスターの方がより重量を感じるため、「重い」が使用されると思われる。例(18)、(19)の例文には、明確に「重い」が使用される対象の比較対象が表されていないが、前後の文脈に比較対象があるため、「重い」が使われると推測される。例(18)では、元々星や太陽などの天体が人類の知識を超える重量を持つ物質であるが、ここでは、II型超新星となる星の質量は太陽より八倍以上もあると強調され、「重い」が使用されると思われる。例(19)では、そのスーツケースも、自分が持って楽に歩く範囲内のものではないため、「重い」が使われるのである。このように、「重い」が使われる場合には、例(17)のように文脈で比較対象があるものと、例(18)、(19)のように文脈に比較対象がなくても、「重い」が使われるものがある。文脈で比較対象が示されていない場合は、話し手の心に何かの基準を比較対象として、それより重量を多く感じる場合に「重い」を用いると思われる。

意味①と共起する名詞は、ほぼ具体的な質量を持つものである。以下、意味①と共起する名詞を少し挙げる。

表3 連体修飾・述語用法における「重い」の意味①と共起する名詞

	共起する名詞 (重い+名詞・名詞+助詞+重い)
意味①	もの、荷物、物質、機材、機械、鉄、槍、剣、ドア、星、石、鎖、雪、カバン、ガラス、球、箱、車、装甲、金属、液体、鎧、動物、服、花、道具、食器...

意味②<物質の量を><食感・視覚・触覚で><多く><感じる><さま>

意味②は食感や視覚、触覚という感覚において物質の量を多く感じることを表す用法である。共起する名詞は実際に存在するものでも、抽象的なものでも可能である。以下の例に基づいて、人の感覚でそれらの量を多く感じる用法についてみよう。

- (20) 外に出ると、熱気を帯びた重い空気が体にまとわりついてきた。
(下川裕治 2000 『オカマのプーさん』)
- (21) 15画以上の字を2文字組み合わせると、それだけで総画数が30画を超え、重い感じになってしまうからです。たとえば、「舞織」という名前は、「真織」「麻織」とした方がずっとすっきりします。(田宮規雄 2002 『最高の名前が見つかる赤ちゃんの命名事典』)
- (22) 空はきっぱりと晴れてくれず、重い雲の下を凍りつくような風が吹いていた。(北原亜以子 1997 『雪の夜のあと』)
- (23) 今まではパウダーオンリーだった私でしたが、乾燥肌になってしまいでどうにもなくなると、以前から気になっていたこのジェルファンデを購入。重い感触は苦手だったのですが、さすがにこれは水分が多いので肌にのせても楽です。
(<https://www.cosme.net/reviews/305378370/>)
- (24) スポンジケーキは小麦粉・卵・砂糖が全部同量を基本に、好みにより増減してください。卵が多いと軽い食感になりますが、パサつきます。小麦粉を増やすと重い食感になりますが、しっとりします。牛乳は水分と風味を与えてしっとりさせます。
(https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q12157999892)

例(20)～(24)のように、「重い」は「具体的な重量」という意味ではなく、より抽象的な質量の意味を表すということが文中に伺える。例えば、例(20)の「重い」は、具体的な質量を表す意味ではない。「熱気を帯びた空気」からはいつもの空気より、肌から感じた圧迫感が強くて熱気の量を多く感じる事がわかる。肌で感じた物質の量の多さが重量をもつ「重い」のイメージをもたらしたと思われる。例(21)の「30画の画数」、(22)の「大量な雲が空を覆っている様子」からは、視覚で感じた量が多いことがわかる。例(23)では、肌に塗ったジェルファンデーションの量を多く感

じ、例(24)では、口にしたパンの実体感やミルクの風味を多く感じる意味を表す。それらの例では、視覚や触覚、食感から受けた刺激が多くて、量的な多さが重量をもつ「重い」のイメージをもたらしたと思われる。

意味②と共起する名詞は、具体的な物質でも抽象的なものでも可能であり、それらのものの量や構成物質などを多く感じるときに用いられる。以下、意味②と共起する名詞を少し挙げる。

表4 連体修飾・述語用法における「重い」の意味②と共起する名詞

	共起する名詞（重い+名詞・名詞+助詞+重い）
意味②	空、雲、曇り空、ジェルファンデーション、食感…

意味③<機械や道具などの操作が><力を要する><さま>

意味③は機械や道具を操作するときに、より力が必要であることを感じる用法である。実際に操作できるものであるため、共起する名詞は主に具体的に存在するものである。以下の例に基づいて、機械や道具などの操作が力を要する用法についてみよう。

(25) 車のハンドルが重い。(作例)

(26) 重いギアを使って心拍数はあがらないが、筋肉疲労が増える。人によっては回復まで数日かかる。

(https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q10224309335)

(27) 今までの自転車に比べてペダルが重いように感じます。特に速度が速くなるほど重くなるようです。常に坂道を登っている感覚です。5段変速ですが、平地はもちろんのこと、下り坂でも5速目は重過ぎてスピードが上がらず使い物になりません。

(https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q13159504088)

例(25)～(27)では、「重い」が修飾するハンドルやギヤ、ペダルなどの重量が重いのではなく、それらの機械や道具を操作するのに力を要するという意味を表す。それらの機械や道具を操るときに、操作するのが難しく、力がより必要となる場合は、重量を多く感じ、「重い」が使われると

考えられる。意味③は、機械や道具を操ったり、使ったりする場合に使う用法である。

意味③と共起する名詞は、ほぼ機械と関連する名詞であり、それらのものを操作するとき、力が必要か体力の消耗を伴う。つまり行動の実行に困難を感じる時に使われる用法である。以下、意味③と共起する名詞を少し挙げる。

表5 連体修飾・述語用法における「重い」の意味③と共起する名詞

	共起する名詞（重い＋名詞・名詞＋助詞＋重い）
意味③	ハンドル、ギヤ、ペダル、クラッチ、レバー、ブレーキ …

意味④<物事や身体の動きが><鈍い><さま>

意味④は物事や体の動作が遅く、鈍いことを表す用法である。共起する名詞は実際に存在するもの（体の部位など）でも、抽象的なものでも可能である。以下の例に基づき、物事や身体の動きが鈍いことを表す用法についてみよう。

- (28) 画像が重くて、表示までに時間がかかる。（作例）
- (29) 帰ってから一度終了して使ってますが、パソコンの動きが重いし、前より反応が鈍いようです。
(https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q122479742)
- (30) ぼうっとして、けだるく、まぶたが重かった。（ステイーヴン・ウォマック 1995 『殴られてもブルース』）
- (31) 株価がちょっと上昇しようとする、忽ち売り物に頭を抑えられる状況が顕著な相場展開を「上値が重い」と言います。株価上昇を売りという漬け物石が押さえ付け、蓋をしているようなイメージです。
(https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q107578720)

例(28)の「重い」は、データ量が多くて、表示速度が遅いことを表す。「画像」というもののデータ量が多く、動きが遅いということである。例(29)のパソコンが重いのは、例(28)と同じように何かの理由でパソコンの動きが遅いことを表す。例(30)の「まぶたが重い」は、眠いため、その状態に伴いまぶたの動きが鈍くなる意味を表す。例(31)の「上値が重い」は、株式の値段上がりが鈍い様子を表す。(28)～(31)の例から、ある物事や身体の動きが鈍い様子に「重い」が使われることがわかる。より重量を持たないものほど動きが軽快であり、より重量をもつものほど動きが遅いように、意味④の「物事や身体の動きが鈍い」は、「具体的な重量をもつ」という重い意味と因果関係があり、メトニミーにより具体的な重量を持つ意味から拡張したものであると思われる。

意味④と共起する名詞は、具体的なものでも抽象的なものでも可能であり、それらの動きが鈍いときに使われる。以下、意味④と共起する名詞を少し挙げる。

表6 連体修飾・述語用法における「重い」の意味④と共起する名詞

	共起する名詞（重い＋名詞・名詞＋助詞＋重い）
意味④	まぶた、動作、処理、上値、画像、ファイル、データ、インターネット…

意味⑤<身体の具合が><すぐれていない><さま>

意味⑤は体の具合が不調であることを表す用法である。そのため、共起する名詞は体の部位に限られる。以下の例に基づき、身体の具合がすぐれない用法についてみよう。

- (32) 毎日のように体が重く何もやる気が出ません。陸上部なんです体が重く調子悪いです。家が遠いため朝早くで夜遅く帰ってきます。
(https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q13278827773)
- (33) 「そのつもりでいる」霧が晴れると、バルタサールはひどいふさぎの虫に襲われた。頭が重く、鉛でも詰められたような心地がした。
(キャンベル・アームストロング 1993『闇から来た刺客』)
- (34) そんなとき、食べ物が胃の中にあると、消化・吸収は十分に行われず、ときには朝まで残ったりします。熟睡できずに朝、胃が重くて

食事がすすまない。(辨野義己、井上由香理 2004 『乳酸菌パウダーダイエット』)

例(32)～(34)のように、身体部位と共起する「重い」は、前後文からみると、体調がよくない意味を表す。例(32)の「やる気が出ない」「調子が悪い」などから、例(33)の「鉛でも詰められたような心地」の表現から、体の具合が普段の状態よりすぐれていないことがわかる。例(34)の「胃が重い」は、食べ物が胃の中にとどまり、消化がうまくできないという不調を感じる意味を表す。この意味は、体のある部位に圧迫感を感じ、体の不調を表す。

不調を表す「重い」は意味②から拡張されると思われる。両方とも抽象的な領域であり、また、不調の程度が高いほど抽象的な量が多いと感じるから、意味②の「抽象的な量を多く感じる」と類似性(メタファー)がある。逆にいうと、意味②の「抽象的な量の多さ」を基盤とし、体の不調という領域へ拡張したと思われる。

意味⑤と共起する名詞は、身体的な部位であり、それらの部位がすぐれていないことを表すときに使われる。以下、意味⑤と共起する名詞を挙げる。

表7 連体修飾・述語用法における「重い」の意味⑤と共起する名詞

	共起する名詞 (重い+名詞・名詞+助詞+重い)
意味⑤	体、頭、肩、腕、腹、胃、胸、脚…

意味⑥<気分が><沈む><さま>

意味⑥は気分が沈むことを表す。そのため、共起する名詞は抽象的で、気分や気持ちに関する語彙に限られる。以下の例に基づき、気分が沈むことを表す用法についてみよう。

(35) そして「不安ですか」「何か焦っていますか」「気分が重く、沈んでいませんか」というように支配感情の明確化を促しながら、患者さんの心を占めている感情を把握していきます。(渡辺俊之 2005 『ケアを受ける人の心を理解するために』)

(36) 地域主義、民族の孤立的傾向、さらには「民族的傲慢」、つまり重い過去から引き継がれた行動様式であり、ブレジネフ時代の〈停滞〉

のせいで完全には取り除けなかった。（エレヌ・カレル=ダンコース 1991『民族の栄光』）

(37) 死刑・執行。保健室は重い空気に包まれた。（響野夏菜 1999『東京 S 黄尾探偵団』）

(38) 新しい情報を知らせたら、皆の間に重い雰囲気^⑥がしばらく漂っていた。（作例）

例(35)～(38)における「重い」は、気分や感情などに関わる状態に使用され、気持ちが暗い、気分が落ち込むという意味を表す。例(35)では、「不安」「焦っている」などの感情的用語と一緒に使われることから、この「重い」は、ある物や出来事に対して、気分が落ち沈むことを表す。例(36)の「重い過去」はその過去の問題に対して気分が重い、つまり、気分がすぐれていないという意味を表す。例(37)の「重い空気」は死刑を執行することが保健室の皆に伝わると、保健室内にいる人は気分が落ち込むという意味を表す。例(38)の「重い雰囲気」は新しい情報を知らせたあと、その場にいる人の気持ちがそれに影響され、全員は気分が落ち込むという意味を表す。意味⑥の「重い」は、何らかの理由により気分が落ち込む、あるいは置かれた環境により気分がすぐれていない意味である。この「重い」は意味②から拡張されると思われる。両方とも抽象な領域であり、また、体がすぐれていない程度が高いほど抽象的な量が多いと感じるから、意味②の「抽象的な量を多く感じる」と類似性(メタファー)がある。

意味⑥と共起する名詞は、気分・気持ちに関わる抽象的なものであり、気分が沈むことを表すときに使われる。以下、意味⑥と共起する名詞を挙げる。

表 8 連体修飾・述語用法における「重い」の意味⑥と共起する名詞

	共起する名詞（重い＋名詞・名詞＋助詞＋重い）
意味⑥	気持ち、気分、雰囲気、空気…

意味⑦<背負う責任や負担を><多く><感じる><さま>

意味⑦は責任や負担が多いことを表す用法である。そのため、共起する名詞は抽象的なものであり、責任や負担などの名詞に限られる。以下の例に基づき、背負う責任や負担が多いことを表す用法についてみよう。

- (39) 政府の支出には古来いつも軍事費が重い負担となる。そこで政府は成るべく経費のかからない軍事力維持の方法を考え、それが三国魏の屯田策となって現われた。(佐伯富ほか 1993『宮崎市定全集』)
- (40) 第一に油田開発には巨額の資金がかかるため、償却費と金利の負担が重い。そのため、投下資本をできるだけ早く回収しようとする圧力が働いている。(江戸雄介 2001『ITの次は「これだ」』)
- (41) 栄ちゃん若旦那は、親が反対するのに、芸者さんと結婚するのだといいはって家出をし、二人で親を捨てて満州に恋の逃避行をしたのだということでした。恋はすてきだけど、重い責任もついていて、栄ちゃんも大変だなあと思いました。(阿部初枝 1988『看護婦一年生』)

例(39)～(41)では、「重い」は背負う負担や責任が多くて、能力を超える意味を表す。例(39)の「軍事費が重い」は、政府にとって軍事費という負担が多いという意味を表す。例(40)の「負担が重い」は、油田開発にかかる費用が多く、負担になるという意味を表す。例(41)の「重い責任」は、一つの家庭を持つ責任が多いという意味を表す。この意味は、意味②の「抽象的な量を多く感じる」と類似性があるため、メタファーによる拡張であると思われる。

意味⑦と共起する名詞は、責任や負担など人間が背負うものに関わる抽象的なものであり、それらの負担を重く感じる時に使われる。以下、意味⑦と共起する名詞を少し挙げる。

表9 連体修飾・述語用法における「重い」の意味⑦と共起する名詞

	共起する名詞 (重い+名詞・名詞+助詞+重い)
意味⑦	負担、責任、税、債務、負荷、職責…

意味⑧<物事の程度が><はなはだしい><さま>

意味⑧は物事の程度がはなはだしいことを表す用法である。共起する名詞は具体的なものでも、抽象的なものでも可能である。以下の例に基づき、物事のはなはだしさを表す用法についてみよう。

- (42) 重度とは、五十肩の中でも最も症状が重く、少し動くだけでも痛くてたまらなくなるような症状です。(加瀬建造 2004『よく効く！キネシオテープ療法』)

- (43) 言いたいことは山ほどあるのに、話す障害が重いため、言っていることが相手になかなか伝わらない人がいます。(地域 ST 連絡会失語症会話パートナー養成部会編 2004『失語症の人と話そう』)
- (44) 多くの国では政治犯の方が罪が重いケースがほとんどなのに、ここでは逆だ。(麻耶雄嵩 1999『鴉』)
- (45) ほとんど悪口雑言ともいふべき批判の言葉をならべたてた訴状を提出した重臣たちは、江戸家老須田満主、侍頭芋川延親の切腹を筆頭に、それぞれ重い処分を受けたが、騒動が一段落してからおよそ三ヵ月後の九月末になって、一人の医師がひっそりと打首の刑を受けた。(藤沢周平 1997『漆の実のみのる国』)
- (46) 目前に、重い冬が来ています。この期間を上手に乗り越えたいものです。(京極高宣ほか 1992『ケアワーク入門』)
- (47) 凱旋門賞で勝つには、フランスの重い馬場で育成してフランスの重い馬場のレースに出続けて育成しないと、凱旋門賞では勝てないと思いますけど。
(https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q12235527187)
- (48) 俺は深い、重い吐息をついて寝返りをうち、そのはずみにさつきと同じ姿勢でこちんとしているサチを見た。(栗本薫 1986『死はやさしく奪う』)

例(42)～(48)では、「重い」はある物事の程度がはなはだしいという意味を表す。(42)は痛みの症状の程度が、例(43)は障害の程度が、例(44)は罪の程度が、例(45)は重臣たちが受けた罰の程度がはなはだしいという意味を表す。(42)～(45)の症状や障害、罪、処分などは、比較的に程度を測れるものである。一方、例(46)の「冬」、例(47)の「馬場」、例(48)の「吐息」は、例(46)～(48)で挙げた症状や障害などのものほど程度を測れるものではない。しかし、「重い」と一緒に使われると、その名詞が表すある特徴が引き出される。例えば、「冬」は名詞であるが、「重い」と一緒に使われると、「冬」の寒くて厳酷であることの特徴が引き出されて、「重い冬」は冬の厳酷さの程度がはなはだしいという意味になる。(47)、(48)についても同様のことが言える。

(42)～(48)の例から、それらの物事の程度のはなはだしさは、話し手にとってある基準を超えて、量的な多さというイメージをもたらす。この意味は、意味②の「抽象的な量を多く感じる」と類似性があるため、メタファー

によって拡張したと思われる。

意味⑧と共起する名詞は、具体的なものでも抽象的なものでも可能であるが、抽象的なものを多く占めている。以下、意味⑧と共起する名詞を少し挙げる。

表 10 連体修飾・述語用法における「重い」の意味⑧と共起する名詞

	共起する名詞（重い＋名詞・名詞＋助詞＋重い）
意味⑧	病気、障害、罪、症状、沈黙、話、テーマ、口調、仕事、現実、言葉、歴史、吐息、問題、作業、内容、処分、痛み、悲しみ、罰、衝撃、課題、不安、副作用、料理、生理、疲労、事件、作品、映画、爆発、責め、静寂、風、香り、傷害、悲嘆、犠牲、影響、味、期待…

意味⑨<物事の重要度が><高い><さま>

意味⑨はある物や事の重要性が高いことを表す用法である。共起する名詞は地位や職位などの抽象的なものが多い。以下の例に基づいて、物事の重要性を強調する用法についてみよう。

- (49) 「降下中から集中射撃を受けている間の自分の心境は、必ず勝たねばならぬという重い任務だけが頭にあって、怖いとか死ぬとかいうことは全く意識しなかった。（上原光晴 1993『堀内海軍大佐の生涯』）
- (50) そう言う役らしくもない役の間々に、試みのように重い役を貰うようになった。五月の歌舞伎座は、羽左衛門生涯の記念になった。（折口信夫 2004『かぶき讃』）
- (51) そうはいつでも善政にも多少の成算と自信はあった。それがなければ、いかに中殿治憲の委嘱といっても、中老のような重い職務を引きうけられるものではない。善政が御小姓頭を辞してから、足かけ八年になる。（藤沢周平 1997『漆の実のみのる国』）

例(49)～(51)の「重い」は重要度や重要視の程度が高いという意味を表す。例(49)の「重い任務」は、絶対勝たなければならないという任務のことである。例(50)では、重要である役が委ねられたということが文中に伺える。例(51)の中老は、武家の重要な職務である。これらの文における「重い」は人や社会などにとって、ある事物が心の中で重要な地位を占めるという意味を表す。重要性が高いことを表す「重い」は意味②から拡張

されると思われる。両方とも抽象な領域であり、また、重要性が高いほど抽象的な量が多いと感じるから、意味②の「抽象的な量を多く感じる」と類似性があるため、メタファーによって拡張したものであると思われる。

意味⑨と共起する名詞は、ほぼ抽象的なものであり、それらのものの重要性を表すときに使われる。以下、意味⑨と共起する名詞を挙げる。

表 1 1 連体修飾・述語用法における「重い」の意味⑨と共起する名詞

	共起する名詞（重い＋名詞・名詞＋助詞＋重い）
意味⑨	任務、地位、役割、務め、道理、コメント、存在…

意味⑩<感情的に><負担を><多く><感じる>

意味⑩は感情的に負担がかかることを表す用法である。共起する名詞はほぼ男女、相手など人に関わるものである。以下の例に基づいて、感情的に負担を多く感じる用法についてみよう。

(52) 彼氏が重い。(中略) 私が大学内で他の男子と話していると怒ります。

「アイツふざけてんだろ」と後で私に言ってきます。サークルでの打ち上げなどの帰りは必ず迎えにきます。そのときは女友達と帰る約束をしていたのに、彼が来てしまったので友達にすごく申し訳なく嫌でした。

(https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1282136812)

(53) 友達が重い。(中略) また最近、「また薬（精神系）飲むことになっちゃった…」ときて、話し聞き出して欲しいのかな？と思いましたが本当に疲れて「そうか、それはでも仕方ないよ。私に迷惑かけるかもって言うけど、そのときはうまくかわして接していくから心配なくていいよ。」みたいなことを言って、詳しくは聞きだしませんでした。

(https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q10115104910)

例(52)、(53)の「重い」は、ある人に対して感情的な負担を多く感じるという意味を表す。例(52)は彼氏のある言語や行動が束縛が強くて、感情

的な負担を感じる、例(53)は友達の行動や性格などに感情的な負担を感じる。感情的に負担を多く感じる意味は、重量を持つものを背に負うイメージから拡張したものであると思われる。

意味⑩と共起する名詞は人間である。人の性格や態度、行為などに感情的な負担を感じる時に使われる。以下、意味⑩と共起する名詞を挙げる。

表 1 2 連体修飾・述語用法における「重い」の意味⑩と共起する名詞

	共起する名詞（重い+名詞・名詞+助詞+重い）
意味⑩	人（女性・男性）、相手、彼氏、彼女、友達、子、奴…

意味⑪<音声が><低く厚みがある><さま>

意味⑪は音や声が低いことを表す用法である。そのため、共起する名詞は音声、声に限られる。以下の例に基づいて、音声が低く厚みがあることを表す用法についてみよう。

(54) 聖の声音が変わった。少年の張りのある高めの声に、重い響きがかぶさった。(金蓮花 1997 『響鳴の森』)

(55) 工藤先生は力いっぱいとびらをあげました。ゴロゴロゴローッと、重い音がひびきわたりました。(日本民話の会学校の怪談編集委員会 1993 『先生にあいにくる幽霊』)

例(54)、(55)のように、迫力がある音が「重い」で表される。例(54)の「重い響き」は、低い声という意味を表す。例(55)の「重い音」は、ゴロゴロゴローッとという擬声語からわかるように、そのとびらを開く音は低い音というイメージがある。声や音が低いと、人に迫力がある、重たいイメージを与えるので、この意味は物質の質量が大きい意味から拡張したものであると思われる。

意味⑪と共起する名詞は音声に関わる抽象的なものである。音が低く重く響くことを表す時に使われる。以下、意味⑪と共起する名詞を挙げる。

表 1 3 連体修飾・述語用法における「重い」の意味⑪と共起する名詞

	共起する名詞（重い+名詞・名詞+助詞+重い）
意味⑪	音声、音色、声、足音、響き…

意味⑫<明度が><低い><さま>

意味⑫は色の明度が低いことを表す用法である。そのため、共起する名詞は色と関わるものである。以下の例に基づき、明度が低いことを表す用法についてみよう。

- (56) 色によって温度や距離、大きさの違いを感じることがありますが、重さにも同じことが言えるそうです。(中略) 黒の方が白よりも「約2倍重い」と感じるそうです。(https://news.1242.com/article/385861)
- (57) あの会社の制服が黒いうえに、皆黒いサングラスをかけているなんて、全体的に重くて、極道みたいです。(作例)

色によって感じ取るイメージがそれぞれ違う。明度がより低い色、例えば、黒色や紺色、茶色などの色彩は明度が高い色に比べてより重量を持つように感じられる。人は明度が低い色に対して重たいというイメージがある。この意味は、「重い」の具体的な重量のイメージから生まれるものであると思われる。

意味⑫と共起する名詞は色と関わる抽象的なものである。色の明度から生じた「重量」のイメージを表すときに使われる。以下、意味⑫と共起する名詞を挙げる。

表 1 4 連体修飾・述語用法における「重い」の意味⑫と共起する名詞

	共起する名詞 (重い+名詞・名詞+助詞+重い)
意味⑫	色

以上のように検討した「重い」の意味は12個ある。その意味を以下のように示す。

- 意味①<物質の重量を><多く><感じる><さま>
意味②<物質の量を><食感・視覚・触覚で><多く><感じる><さま>
意味③<機械や道具などの操作が><力を要する><さま>
意味④<物事や身体の動きが><鈍い><さま>
意味⑤<身体の具合が><すぐれていない><さま>
意味⑥<気分が><沈む><さま>

- 意味⑦<背負う責任や負担を><多く><感じる><さま>
 意味⑧<物事の程度が><はなはだしい><さま>
 意味⑨<物事の重要度が><高い><さま>
 意味⑩<感情的に><負担を><多く><感じる>
 意味⑪<音声><低く厚みがある><さま>
 意味⑫<明度が><低い><さま>

以上では、共起する名詞に基づいて「重い」の意味を分類した。4.3節で「重い」の中心義を検討し、4.4節で認知能力を基盤とする概念のメタファー、メトニミーを用いて、さらにネットワークモデルの図式やスキーマ、フレームで「重い」の意味間の関係を示す。

4.2.2 連用修飾用法における「重い」の意味用法

本節では、「重い」の連用修飾用法における意味を分析する。

意味①<物質の重量を><多く><感じる><さま>

意味①は具体的な物質の重量が多いことを表す用法である。以下の例に基づき、物質の重量が重いという用法についてみよう。

- (58) 気づいたら財布の中に 100 円玉や 10 円玉が、10 枚以上あるなんてことを皆さんも経験したことがあると思います。小銭が溜まると財布は重くなるし、小銭を優先的に支払に使おうとすると数えるのも大変で、良いことが全くありません。

(https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q14170170804)

- (59) 祖母のときも父のときも、葬儀の際に降る雪は頭や首筋に、冷たくはなかったが、いつもよりずっと水分を含んで重くのしかかってきた。(南木佳士 2005『こぶしの上のダルマ』)

- (60) ボブで黒髪なんですけど、髪の量が多くて重く見えてしまいます。

(https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q10176492890)

例(58)の「重く」は、小銭が増えて重量が重いことを表す。例(59)の「重く」は、降る雪の重量が重いことを表す。例(60)では、黒い髪である

と、視覚的に重量が重いということを表す。(58)～(60)における「重く」は、具体的な重量を多く感じる意味を表すと考えられる。

意味①と共起する動詞は、以下のように挙げており、「重く」は重量があることを表す用法である。

表 1 5 連用修飾用法における「重い」の意味①と共起する動詞

	共起する動詞（重く＋動詞）
意味①	のしかかる、見える…

意味②<物事の程度が><はなはだしい><さま>

意味②は物事の程度のはなはだしいことを表す用法である。以下の例に基づき、程度のはなはだしさを表す用法をみよう。

- (61) 軽い罪でも重く罰すれば、罪を犯す者がいなくなって刑罰を必要としなくなる。（商鞅 1995 『商君書』）
- (62) 土地の短期譲渡所得については、土地投機を抑制するため特に重く課税している。（金子宏 2001 『租税法』）
- (63) 加重とは、このようなケースではなく、過去に懲戒処分をおかしているにもかかわらず、またやってしまったというケースである。このようなケースで、重く処分することを明示した規定が加重の規定である。（北村庄吾、小林秀星 2003 『小さな会社のための採用から退職までの実務ができる本』）
- (64) 霜に凝ろうとする夜露に、庭下駄の緒が重く湿る。（林不忘 2004 『丹下左膳』）
- (65) 藍は、重く淀んだ池を指して、「お母さんが、『遠くへ行かないで』と言いながら追って来て一ここへ来ると、娘の姿はなかったんです」。（赤川次郎 2005 『神隠し三人娘』）
- (66) 翌年になって藤壺入道の宮（中宮）は、三月から重く病み、三十七歳を一期として世を去った。（ムック 1997 『「源氏物語」がわかる。』）

(67) そうした重く実った穀物や果実を「女」が頭の上に乗せて運んでいる姿を表しているのが「倭」という文字だ。(松本健一 1999 『「日の丸・君が代」の話』)

例(61)～(63)の「重く」はより厳しい罰をすとか、税金を高くするなど、動作の厳しい程度を表す。例(64)～(67)の「重く」は物事の状態の程度がはなはだしいことを表す。この意味は、意味①から拡張されると思われる。つまり、物事の程度がはなはだしい意味は量的な多さというイメージをもたらすものである。意味①の具体的な重量の多さと類似性があり、メタファーによって拡張したと思われる。

意味②と共起する動詞は、以下のように挙げ、「重く」はその物事の程度のはなはだしさを表す用法である

表 1 6 連用修飾用法における「重い」の意味②と共起する動詞

	共起する動詞 (重く+動詞)
意味②	罰する、処罰する、処分する、課税する、判断する、吐息する… 湿る、よどむ、病む、濁る、沈む、痺れる、曇る、鈍る、流れ出す、濡らす、垂れる、垂れ込める、関わる…

意味③<物事の重要度が><高い><さま>

意味③は物事の重要性が高いことを表す用法である。以下の例に基づき、重要性の程度を表す用法についてみよう。

(68) 本書で一貫して管理や労使関係の視点よりも仕事や職場のあり方そのものに問題を見ているのは、この自発性を重く考えるからである。(大野正和 2003 『過労死・過労自殺の心理と職場』)

(69) これは直接には、徳山を揶揄した言い方と見ていいのですが、これに対して、圓悟は必ずしもそうは取らずに、雪竇の著語を非常に重く取っています。(末木文美士 1998 『「碧巖録」を読む』)

(70) 鷗外は年齢による心性の変化を重く見る。(佐々木雄爾 2004 『長明・兼好・芭蕉・鷗外』)

例(68)～(70)の「重く考える」「重く取っている」「重く見る」はすべて「重視する」という意味が含まれている。重視するというのは、その事物が心の中に大きく占めるということである。意味③は意味①から拡張されると思われる。つまり、重要性が高いという意味は量的な多さというイメージをもたらすものである。意味①の具体的な重量の多さと類似性があり、メタファーによって拡張したと思われる。

また、意味③と共起する動詞は、以下のように挙げ、「重く」はその重量性の程度を表す用法である。

表 1 7 連用修飾用法における「重い」の意味③と共起する動詞

	共起する動詞（重く＋動詞）
意味③	考える、受け止める、用いる、捉える、取り扱う、取る、聞こえる、見る、取り立てる、思われる、受け取る…

以上のように、動詞と共起する「重い」の意味用法は3個ある。その意味を以下のように示す。

- 意味①<物質の重量を><多く><感じる><さま>
- 意味②<物事の程度が><はなはだしい><さま>
- 意味③<物事の重要度が><高い><さま>

本節では、動詞と共起する「重い」の意味用法を分類した。4.3節で「重い」の中心義を検討してから、4.5節で認知能力の概念であるメタファー、メトニミーを用いて、ネットワークモデルの図式で、動詞と共起する「重い」の個々の意味間の関係を示す。

4.3 「重い」の中心義の検討

本稿は、3.2節でプロトタイプの意味(中心義)の定義として池上(1975)と初山(1992)を取り上げた。それに従い、本研究のプロトタイプの意味(中心義)を多義語の複数の意味のうち、より具体性があるものをプロトタイプの意味であると認定する。

4.2.1節で名詞と共起する「重い」の意味用法は①～⑫、4.2.2節で動詞と共起する「重い」の意味用法は①～③のようにまとめた。以上で述べた定義

によって、両方とも意味①は具体的な重量を表すものであるため、意味①を「重い」の中心義と認定する。

4.4 連体修飾用法・述語用法における「重い」の意味拡張の検討

4.3 節では、池上（1975）と靱山（1992）の定義に従い、「重い」の中心義を意味①と認定した。

続いて、意味②～⑫の意味間の関連性を解明する。まず、意味②～④は意味①から拡張したものである。意味②は、「重い空気」「総画数が重い感じになる」「重い雲」「ジェルフアンデーションが重い」「重い食感」のように、物質の量を食感・視覚・触覚で多く感じる意味である。意味①の「具体的な重量の多さ」を感じる「重い」のイメージから意味②の「抽象的な量を多く感じる」という抽象的な量の領域へ拡張して、量の多さを感じるという性質的な類似性がある。つまり、メタファーに基づいて生まれたものであると考えられる。意味③は、重量によって動作の操作や実行に力が必要であることから、意味①から因果関係のメトニミーによるものであると推測される。意味④は、「画像」「パソコンの動き」「まぶた」などの動作自体が鈍い様子は、重量が多くあるため、動きが遅く、鈍くなることから、意味①から因果関係のメトニミーによるものであると推測される。

次に、意味⑤、⑥は、意味②という抽象的な用法から拡張したものである。意味⑤は身体の一部がいつもの状態ほどすぐれていないときに受けた刺激や苦痛があり、身体的に刺激を受けるという点については意味②の「物質の量を食感・視覚・触覚で多く感じる」という抽象的な量を多く感じる」ところと類似性がある。従って、意味⑤はメタファーによって、意味②から拡張したと思われる。意味⑥は、気分が沈むことを表す。落ち込んだ気分を多く感じるという点で、意味②の「物質の量を食感・視覚・触覚で多く感じる」という抽象的な量を多く感じる意味と類似性がある。そのため、意味⑥はメタファーによって意味②から拡張したと推測される。

さらに、意味⑦、⑧、⑨は、意味②から拡張したものである。意味⑦は、背負う責任や負担を多く感じるという抽象的な量の多さは、意味②の「物質の量を食感・視覚・触覚で多く感じる」と量的な面における性質的な類似性がある。そのため、意味⑦はメタファーによって意味②から拡張したと推測される。意味⑧は、物事の程度がある基準を超え、はなはだしく感じる意味を表す。基準を超えた程度をはなはだしく感じるという点で、意味②の「物質の量を食感・視覚・触覚で多く感じる」という抽象的な量を多く感じる意味と類似性がある。そのため、意味⑧はメタファーによって意味②から拡張されると思われる。意味⑨は、重要性が高い事物は、心の中に大きく占めている。その量の多さは、意味②の「物質の量を

食感・視覚・触覚で多く感じる」と量的な面における性質的な類似性がある。つまり、メタファーにより拡張したと推測される。意味⑩は、意味⑦から拡張したものである。人の性格や態度、行為などが相手に精神的な負担をかけることは、意味⑦の「背負う責任や負担を多く感じる」ことから、性質的な類似性（メタファー）によって、精神的な領域へ拡張したと推測される。

最後に、意味⑪と⑫は、意味①から拡張したものである。音が低いと、人に重たいイメージをもたらすので、意味⑪は意味①の「重量を多く感じる」という因果関係（メトニミー）によってから拡張したと考えられる。意味⑫は、人間の脳は色の明度により重量の違さを感じる傾向がある。明度の高いものがより軽そうに見え、明度の低いものがより重そうに見えるように、意味①の「重量を多く感じる」と因果関係がある。つまり、メトニミーによって拡張したと推測される。

また、意味②の「物質の量を食感・視覚・触覚で多く感じる」、意味⑦の「責任や負担を多く感じる」、意味⑩の「精神的な負担を多く感じる」から、次のスキーマが抽出できると思われる。

スキーマ(a) : <物事から><受けた刺激や感じが><多い><さま>

意味⑥の「気分が沈む」、意味⑦の「背負う責任や負担を多く感じる」、意味⑩の「感情的に負担やプレッシャーを感じる」から、次のスキーマが抽出できると思われる。

スキーマ(b) : <負担を><多く><感じる><さま>

これまでの考察から、「重い」の意味①～⑫の意味拡張を図1の多義ネットワークモデルになる。

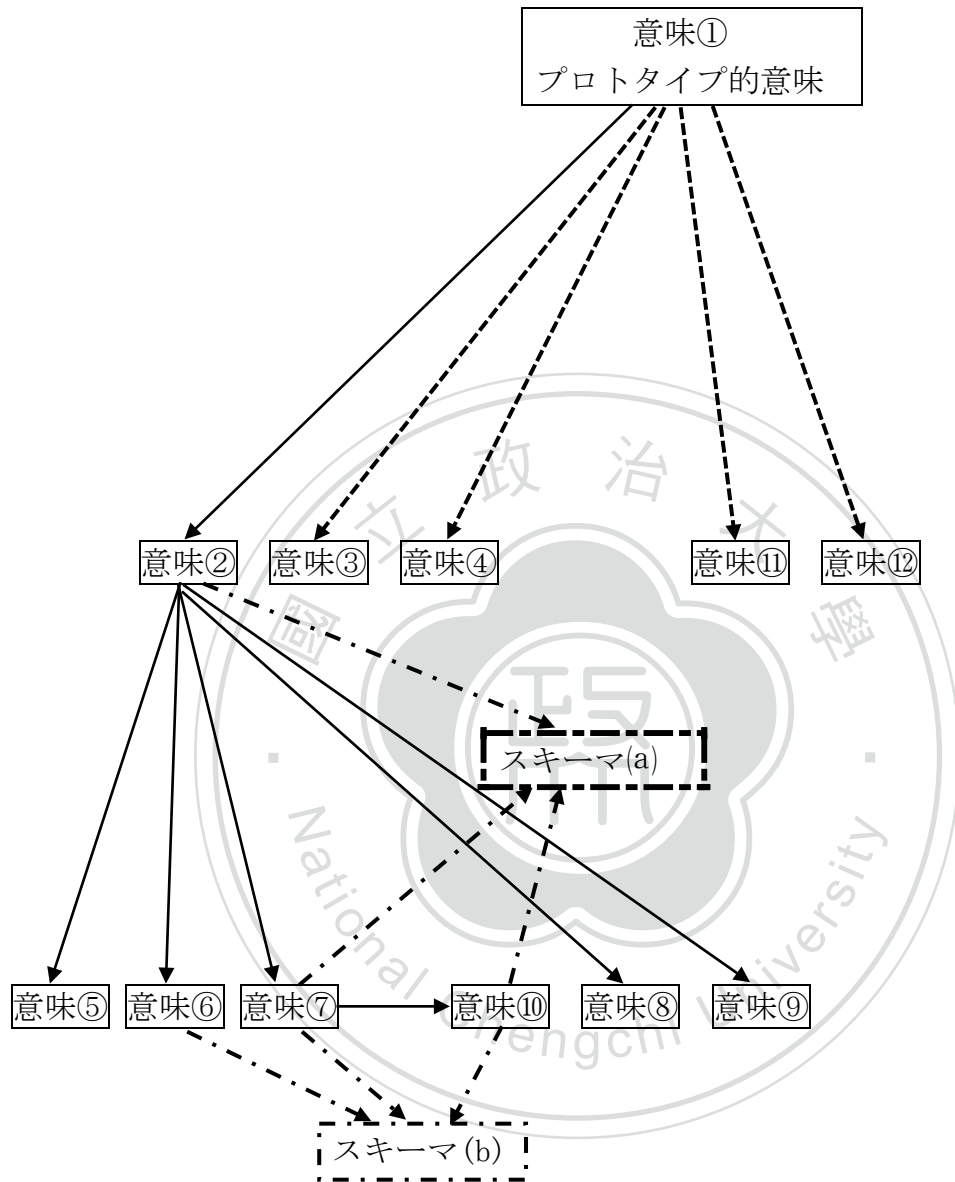
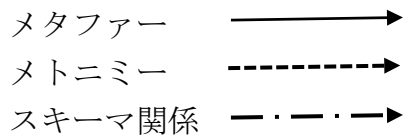


図5 (名詞と共起する)「重い」の多義ネットワークモデル

続いて、意味①、③、④、⑪、⑫における相互関係を確認するとともに、この五つの意味の基盤となるフレームについて考える。

意味①、③、④、⑪、⑫は、「重量」による影響である。まず、意味①は、形容詞「重い」のプロトタイプの意味であり、具体的な重量を多く感じることを表す。意味③、④、⑪、⑫は、意味①の「重量」による影響である。意味③「操作に力を要する」は、意味①の「重量」を多く感じるため、

操作に力が要ることから、意味①から因果関係のメトニミーにより拡張したものであると推測される。意味④「物事や身体の動きが鈍いさま」は、意味①の「重量」を多く感じるため、動きが遅く、鈍くなることから、意味①から因果関係のメトニミーにより拡張したものであると推測される。意味⑪「音声が高く厚みがある」は、低い音が重たいイメージをもたらすことから、意味①と因果関係があり、メトニミーによって拡張したものであると推測される。意味⑫「明度が低い」は、明度が低いものが重量が重いイメージをもたらすことから、意味①と因果関係があり、メトニミーによって拡張したものと推測される。

そのため、我々の身体的経験に基づく、五つの意味の基盤をなすフレームを以下のように提示する。

「重量による影響」のフレーム

「重量を多く感じる」（意味①）場合、その重量に影響されて「操作に力が要る」（意味③）、「動きが鈍い」（意味④）ことになる場合がある。逆に重量に影響されて、「低く厚みがある音声を発する」（意味⑪）、「明度が低い」（意味⑫）ことになる場合もある。

例えば、重量が重い（意味①）から操作にもっと力を出さなければならない（意味③）場合は因果関係があり、このようなメトニミーという関連性がある。重量が重い（意味①）ときに、動きが鈍くなる（意味④）場合があるため、重量に影響された因果的な関係がある。なお、低く厚みがある音声（意味⑪）を聞いたときに、重量が重い（意味①）と連想する、色の明度が低い（意味⑫）ほど重量を多く感じる（意味①）という逆に影響される場合もある。

以上のように、「重い」という語は、「重量による影響」のフレームを構成する意味①、③、④、⑪、⑫のいずれかを焦点化するものと記述できる。メトニミー関係による個々の意味拡張も含めて図示すると以下の図6のようになる。

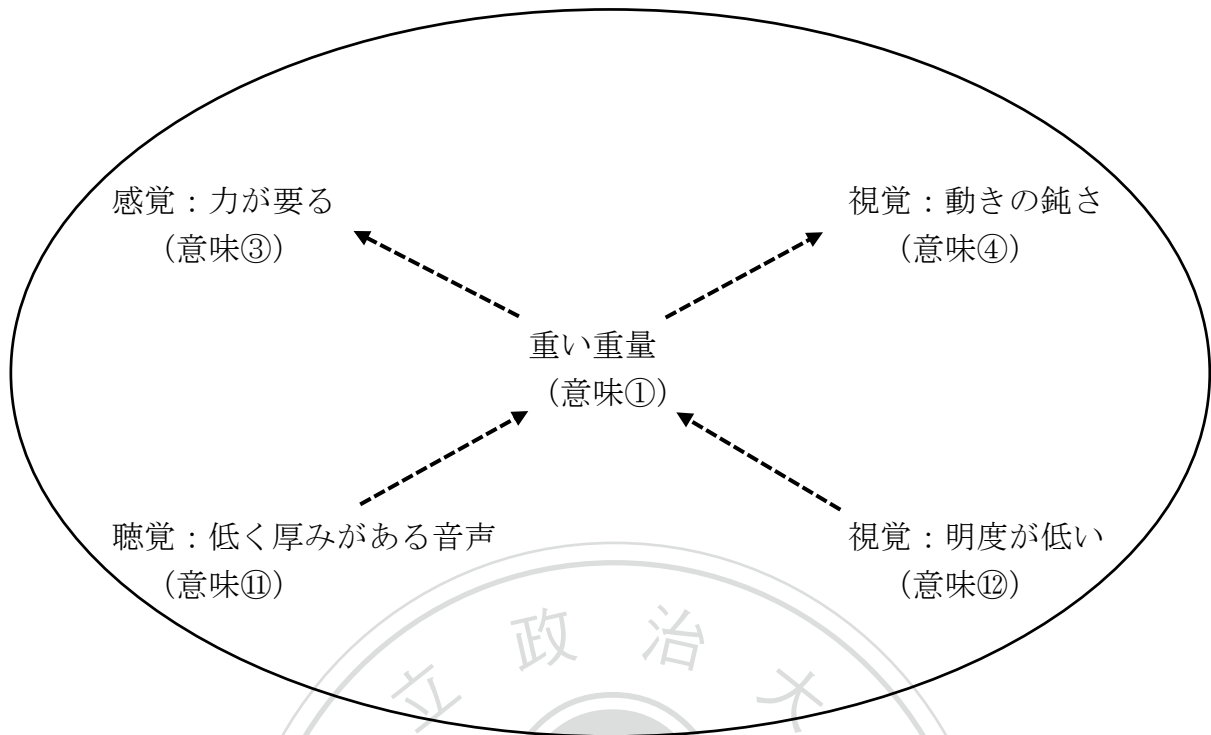


図6 「重量による影響」のフレーム

4.5 連用修飾用法における「重い」の意味拡張の検討

4.3 節で述べたように、池上（1975）と靱山（1992）の定義に基づき、名詞と共起する「重い」の意味用法の中心義、動詞と共起する「重い」の意味の中心義をともに意味①と認定した。

本節では、動詞と共起する「重い」の各意味を、メタファーやメトニミーなどの認知言語学の理論を利用して、それら意味の間の関連性を解明する。

意味②、③は意味①の「具体的な重量」から抽象的な量の領域へ拡張したものである。意味②は、物事の程度がはなはだしいことを表す用法である。物事の程度を計量化すれば、はなはだしいほど抽象的な量が多い。意味②は意味①の「量的な多さ」と性質的な類似性があり、メタファーから拡張したものであると思われる。意味③は、物事の重要度が高いことを表す意味である。重要性が高いほど心に占める。心を容器と見なせば、重要性が高いほうが心に占める割合が高く、つまり、占める量が多いと捉えられる。意味③は意味①と「量的な多さ」という性質において類似性があり、メタファーに基づいて意味①から拡張したものであると推測される。

以上の考察から、動詞と共起する「重い」の意味①～③の意味拡張を図7の多義ネットワークモデルで表すことができる。

メタファー —————→
メトニミー - - - - -→
スキーマ関係 - · - · - →

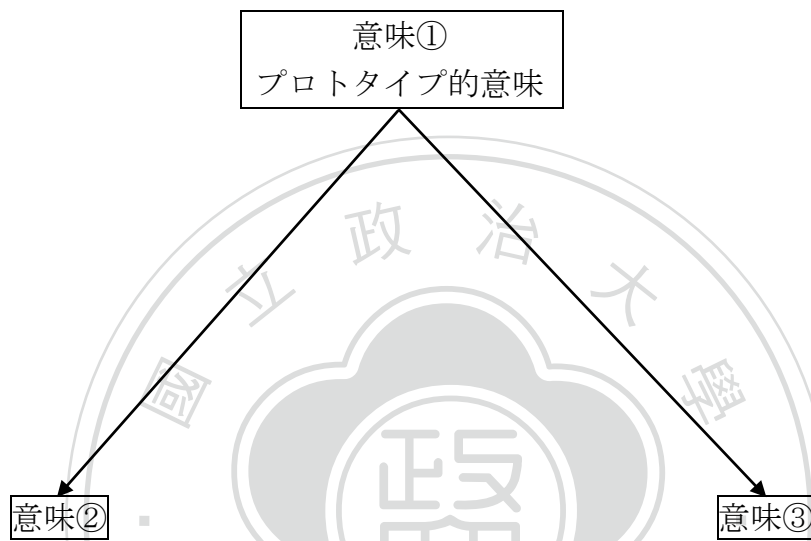


図7 (動詞と共起する)「重い」の多義ネットワークモデル

4.6 先行研究における問題点の解決

2.2節で見たように、先行研究の楊(2012)の問題点は2つある。問題点①は、楊が提出した分類に収まらない「重い」の用法があると思われる。例えば、「重い雲」、「空気(物理)が重い」、「データが重い」、「ハンドルが重い」などである。「重い雲」における「重い」は「物理的な重量」ではなく、また、「物事の程度」「精神的な圧迫感」「肉体的な圧迫感」とも言えない。「空気(物理)が重い」、「データが重い」、「ハンドルが重い」なども楊(2012)の分類に収まらない用法である。

問題点②は、名詞との共起関係における「肉体的な圧迫感」と「体への圧迫感」という分類について、同じ意味に分類されるものが、違う意味を表すものがある。例えば、楊(2012)は、「口が重い」「肩が重い」「足が重い」な

どの「重い」を同じく「体への圧迫感」に分類しているが、「肩が重い」と「足が重い」は「怠い」、「腰が重い」と「足が重い」は「なかなかやる気がない」、「口が重い」は「話が少ない」という意味を表し、それらの表現における「重い」はそれぞれ違う意味を表すと思われる。

以上に提出した二つの問題点により、楊（2012）の「重い」に関する分類を検討する必要があると考えられる。本稿は認知言語学の立場をとり、身体的な経験を反映する人間の認知・運用能力との関わりで、言語現象の本質を探究する視点から「重い」の意味を検討すると共に、複数の意味の間の関係や意味拡張の認知プロセスを明らかにした。

まず、問題点①、楊（2012）の分類に入らない「重い雲」、「空気（物理）が重い」、「データが重い」、「ハンドルが重い」などの「重い」の用法について、本稿で分類した「重い」の意味②、③、④によって、収まるようになる。「重い雲」、「空気（物理）が重い」などの「重い」の用法は、重量が多いのではなく、物質の量を食感・視覚・触覚で多く感じ、抽象的な用法である。「ハンドルが重い」などの「重い」の用法は、機械や道具などの操作にはより力を要する使い方である。「データが重い」などの「重い」の用法は、物事や身体自体の動きが鈍いことを表す意味である。

続いて、問題点②について、楊（2012）は「口が重い」「肩が重い」「足が重い」などの「重い」の用法を同じく「体への圧迫感」へ分類しているが、「肩が重い」と「足が重い」は「怠い」、「腰が重い」と「足が重い」は「なかなかやる気がない」、「口が重い」は「話が少ない」という意味を表すように、それらの表現における「重い」はそれぞれ違う意味を表す。本稿では、「肩が重い」「体が重い」「胃が重い」など、体調不良に関わる用法を意味⑤に分類した。「足が重い」「肩が重い」などの慣用句は、4.1節の説明によって本稿の考察対象から外すことにした。楊（2012）は「腰が重い」「足が重い」「肩が重い」などの慣用句と他に体の部位と共起する形容詞「重い」の用法を共に、「体への圧迫感」の分類に入れるのが不適切ではないかと思われる。慣用句は固定された構成であるため（森田 1966、宮地 1982、国広 1985）、構成要素であるものの本来の意味が失われている可能性があるからである。また、「足が重い」「口が重い」「腰が重い」などの慣用句も、本稿で検討した「体の具合がすぐれていない」（意味⑤）と異なる意味を持つことが用例から確認できた。「口が重い」とは、「話が少ない、無口」という意味、「足が重い」「腰が重い」とは、「行動する気になれない」という意味を表す。本稿では、慣用句は構成要素「重い」の意味が失われているため、考察対象外とし、ここでは深く探究をしない。

本稿で新しく検討した「重い」の意味分類によって、先行研究における楊（2012）の問題点①を解決できる。問題点②について、「体が重い」「肩が重い」「胃が重い」などを意味⑤に分類したが、「口が重い」「足が重い」「肩が重い」などの慣用句を考察対象外と扱った。慣用句における「重い」の意味の考察を今後の課題としたい。

本章では形容詞「重い」の意味用法を新しく分類してから、複数の意味の間の関係を解明することによって、多義語の意味間の関連性を示すことができた。この方法をほかの形容詞の研究にも応用できると考えられる。



第5章 「軽い」の意味考察及び「重い」との非対称性

5.1 はじめに

形容詞「軽い」は「重い」の対義語と見なされる。しかし、実際に用例を見ると、「重い雲」とは言えるが「軽い雲」は言えない、「軽い食事」とは言えるが「重い食事」とは言えないように、意味用法に関して非対称性がある。そのため、本章では、形容詞「重い」の対義語とされる「軽い」を取り上げ、「軽い」の意味用法を考察してから、「重い」の意味用法と比較し、意味の違いを探る。

「軽い」の考察対象について、4.1節で示された形容詞「重い」の考察対象と同じく、派生語の「軽さ」「軽み」「軽んじる」を考察対象としない。また、ここでは「重い」の意味用法と比較するため、「軽い」の意味用法のみ考察する。「重い」の節で行う考察のように、認知言語学の理論で「軽い」の意味間の関連性を探らない。

以下では、連体修飾用法・述語用法における「軽い」の意味用法は5.2.1で、連用修飾用法における「軽い」の意味用法は5.2.2で検討する。また、「重い」の意味との比較を、それぞれ5.2.1.1節と5.2.2.1節で考察する。最後に、5.3節でまとめる。

5.2 「軽い」の意味用法

5.2.1 連体修飾用法・述語用法における「軽い」の意味用法

本節では、「軽い」の連体修飾用法・述語用法における意味を分析する。

意味①<物質の重量を><少なく><感じる><さま>

意味①は、具体的な物質の重量が少ないことを表す用法である。そのため、共起する名詞は主に実際に存在し、質量を持っているものである。以下の例に基づき、物質の重量が少ないことを表す用法についてみよう。

(71) 重い物、大きな物を下に、軽い物、小さな物を上にする。(労働調査会 2002『新入社員教育マニュアル』)

(72) マグネシウムは、金属の中で一番軽い材料です。(松木啓介 2005『材料がわかる』)

- (73) 建築材料が軽いため、都市全体が数日で、もし必要ならさらに安全なところに再建できた。(アンソニー・リード 2002『大航海時代の東南アジア』)

例(71)の文は、より重量を持つものを下に、より重量を持たないものを上という意味を表す。例(72)は、「マグネシウム」が、金属の中で最も重量を感じない金属であることを表している。例(73)は、建築材料の重量があまり重くないため、簡単に担いで他の場所に再建できることを表している(71)～(73)における「軽い」は、具体的な物質は重量が少ないことを表している。

意味①と共起する名詞は、ほぼ具体的な質量を持つものである。以下、意味①と共起する名詞を少し挙げる。

表 18 連体修飾・述語用法における「軽い」の意味①と共起する名詞

	共起する名詞 (軽い+名詞・名詞+助詞+軽い)
意味①	もの、元素、原子、物質、素材、材料、荷物、容器、道具、石、木、糸、本、プラスチック、ルアー、金属、クッキー、星、土、砂、衣服、バッグ、剣、動物、殻、液体、爆弾、粒子…

意味②<物質の量を><食感・触覚で><少なく><感じる><さま>

意味②は食感、触覚という感覚で物質の量を少なく感じることを表す用法である。共起する名詞は実際に存在するものでも、抽象的なものでも可能である。以下の例に基づき、食感や触覚で物質の量を少なく感じる用法についてみよう。

- (74) 化粧水は1番初めとして、その後はテクスチャが軽い順に付けていくのが無難です。
(https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q11248646166)
- (75) 軽い食感、空気のような一とうたってるお菓子やスイーツが増えてますが、原価を抑えるために行ってるように見えますが…(https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q)

例(74)の「軽い」は、スキンケアアイテムの肌に与える刺激が少ないという意味を表す。例(75)の「軽い」は、文中に現れた「空気のような」という文からわかるように、食感が口に与える刺激が少ないことを表す。このように、意味②の「軽い」は触覚と食感から受けた刺激が少ないという意味を表す。

意味②と共起する名詞は、具体的な物質でも抽象的なものでも可能であり、それらのものの量や構成物質などを少なく感じるときに用いられる。以下、意味②と共起する名詞を挙げる。

表 19 連体修飾・述語用法における「軽い」の意味②と共起する名詞

	共起する名詞（軽い＋名詞・名詞＋助詞＋軽い）
意味②	ジェルファンデーション、テクスチャー、食感…

意味③<機械や道具などの操作が><力が要らない><さま>

意味③は機械や道具を操作するときをそれほど必要としないことを表す用法である。共起する名詞は主に具体的に存在するものである。以下の例に基づき、機械や道具などの操作に力を必要としない用法についてみよう。

(76) 効かない時のブレーキペダルは軽い感じがします。慌てて踏みな直すとブレーキが効くようになり、それ以降運転中は問題ありません。

(https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q13218563758)

(77) 最近の車のハンドルが軽いのは、市場アンケートをして「ハンドルが重い」という意見が多いので、あえて軽く回せるように設計しているのです。

(https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1413797864)

(76)、(77)の「軽い」は、「ペダル」「ハンドル」の具体的な重量が少な

いということを表すのではなく、それらの機械や道具を操るときに、力を必要としない意味を表す。

意味③と共起する名詞は、ほぼ機械と関連する名詞であり、それらのものを操作するときそれほど力を必要としないという用法である。以下、意味③と共起する名詞を少し挙げる。

表 2 0 連体修飾・述語用法における「軽い」の意味③と共起する名詞

	共起する名詞（軽い＋名詞・名詞＋助詞＋軽い）
意味③	ハンドル、ギヤ、ペダル、クラッチ、レバー、ブレーキ …

意味④<物事や身体の動きが><速い><さま>

意味④は物事や体の動作が速いことを表す用法である。共起する名詞は実際に存在するものでも、抽象的なものでも可能である。以下の例に基づき、物事や身体の動きが速いことを表す用法についてみよう。

- (78) Via はアプリサイズが小さく、シンプルな機能性で余裕な読み込みもない非常に軽いブラウザアプリです。(https://ranking.jp/article/8209)
- (79) ある閾値以下の情報を切り捨てることにより、データが軽く、計算が速いというメリットがある。(和田洋巳、三嶋理晃 2004『呼吸器病学総合講座』)

例(78)の「軽いブラウザ」は、ブラウザの動きが軽快で、表示速度が速いという意味を表す。例(79)の「データが軽い」は、データの量が少なく、表示速度が速いという意味を表す。このように、以上の例における「軽い」は物事や身体の動きが速いという意味を表す。

意味④と共起する名詞は、具体的な物質でも抽象的なものでも可能であり、それらのものの動きが速いことを表すときに使われる。以下、意味④と共起する名詞を挙げる。

表 2 1 連体修飾・述語用法における「軽い」の意味④と共起する名詞

	共起する名詞（軽い＋名詞・名詞＋助詞＋軽い）
意味④	まぶた、動作、処理、上値、画像、ファイル、データ、ブ

	ラウザ…
--	------

意味⑤<身体の具合が><いい><さま>

意味⑤は体の具合がいいことを表す用法である。そのため、共起する名詞は体の部位に限られる。以下の例に基づき、身体の具合がいい用法についてみよう。

- (80) 最近、体が軽いような、頭がふわふわするようなほろ酔いに近い？時が度々あります。眠気にも近いような。
https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q10153065350
- (81) 過去最高に肩が軽い!!!ということに気付きました。神社には日頃の感謝と良縁祈願をしにいったのですが、まさかの肩こりがなくなるなんて。
https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q10192059420

(80)は、文脈から休肝日のおかげで、体の具合がよくなったことがわかる。例(81)は、「肩こりがなくなる」というメッセージから、肩の具合はだいぶよくなったことがわかる。(80)、(81)の「軽い」は、「体の具合がいい」という意味を表す。

意味⑤と共起する名詞は、身体部位を表す名詞であり、それらの部位の具合がよく、楽であることを表すときに使われる。以下、意味⑤と共起する名詞を挙げる。

表 2 2 連体修飾・述語用法における「軽い」の意味⑤と共起する名詞

	共起する名詞 (軽い+名詞・名詞+助詞+軽い)
意味⑤	体、肩、腹、脚…

意味⑥<気分が><楽である><さま>

意味⑥は気分が気軽であることを表す。そのため、共起する名詞は抽象的で、気分や気持ちに関する語彙に限られる。以下の例に基づき、気分が軽快であることを表す用法についてみよう。

- (82) 「親戚の家にでも住むような軽い気持ちで住んでくれればいいの」千田さんの身を乗り出すような言い方に、私は少し不安になった。(岩瀬成子 1996 『やわらかい扉』)
- (83) 「よその子どものための施設を新たに作る資金を出す程、理事たちには経済的余力はないし、鬼頭氏も財布は空っぽらしいっすから」嘉門は酔ってきたらしく、言葉遣いにいつもの軽い雰囲気が出ていた。(能島龍三 2003 『風の地平』)

(82)の「軽い気持ち」は、心の負担がない、リラックスで楽な気分である意味を表す。(83)の「軽い雰囲気」は、言葉遣いがかたいのではなく、普段のようなくだけた表現を使うという意味を表す。つまり、「軽い」は気分や雰囲気などと一緒に使われるときに、「気分や気持ち、雰囲気が楽である」という意味を表す。

意味⑥と共起する名詞は、気分・雰囲気と関わる抽象的なものであり、気分が楽である意味を表す。以下、意味⑥と共起する名詞を挙げる。

表 2 3 連体修飾・述語用法における「軽い」の意味⑥と共起する名詞

	共起する名詞 (軽い+名詞・名詞+助詞+軽い)
意味⑥	気持ち、気分、雰囲気、空気…

意味⑦<背負う責任や負担を><少なく><感じる><さま>

意味⑦は責任や負担が少ないことを表す用法である。そのため、共起する名詞は抽象的なものであり、責任や負担などの名詞に限られる。以下の例に基づき、背負う責任や負担が少ないことを表す用法についてみよう。

- (84) 治療が簡単にすむことと、患者への負担が軽いので現在よく行われています。(広岡昇 1996 『ここが知りたい肝炎・肝硬変・肝がん』)
- (85) 「人が死ぬ科」は責任が重い。外科、救急、産科、小児とか。「人が死なない科」は責任が軽い。皮膚科、眼科、耳鼻科とか。そう

いう意味では研究医が一番。

(https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q14220988054)

上記の例における「軽い」は、背負う責任や負担がそんなに多くない、ストレスを感じるほどの程度ではない意味を表す。例(84)の「軽い」は、治療法が簡単だから患者に負担がかからない。例(85)の「軽い」は、医者たちが背負う責任がそれほど重くないという意味を表す。

意味⑦と共起する名詞は、責任や負担など人間が背負うものに関わる抽象的なものであり、それらの負担をあまり感じないときに使われる。以下、意味⑦と共起する名詞を挙げる。

表24 連体修飾・述語用法における「軽い」の意味⑦と共起する名詞

	共起する名詞（軽い＋名詞・名詞＋助詞＋軽い）
意味⑦	負担、責任、税、負荷、職責…

意味⑧<物事の程度が><低い><さま>

意味⑧は物事の程度が低いことを表す用法である。共起する名詞は具体的なものでも、抽象的なものでも可能である。以下の例に基づき、物事の程度が低いことを表す用法についてみよう。

(86) 一般的に薬剤性肝障害は症状が軽く、薬を中止すればほとんどのものは回復します。(松田春甫, 神坂和明 1996『専門医がやさしく教える肝臓病』)

(87) 七海市内の飲食店で関西系広域指定暴力団の組員二人が銃撃され、一人が重傷。もうひとりが軽い怪我を負った。(荻原浩 2003『なかよし小鳩組』)

(88) 夏でも使える軽い甘さの香水を探しています。冬の間はマジョロマンティカを使っていたんですが、結構濃厚な甘さなのでこれからの季節つけていると香害になりそうで心配です。

(https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q13128584758)

(89) 休憩時間とは、一定時間の勤務を続けた場合の軽い疲労を回復し、職務能率の増進を図ることを目的として、正規の勤務時間中

に付与されるいわゆる手休めの時間をいう。(東京都職員研修所 2001『職員ハンドブック』)

- (90) 引っ越しのせいで、身边がざわついたせいか、前日から食欲がなくて、軽い頭痛がする、と言う。少し動いただけでも辛そうにするので、宇津木は彼女を休ませ、ほとんどすべての作業を引き受けた。(小池真理子 2000『薔薇の木の下』)
- (91) また、食後に軽い運動をすると、胃腸のぜんどう運動が盛んになり、効果は倍増します。(根本幸夫 1999『おいしい漢方食』)
- (92) 触れるだけの軽いキスの後、額を合わせたまま囁く。(いとう由貴 2003『砂漠の月に抱かれて』)
- (93) 妻の気持もわからぬわけではないが、軽いショックを覚えた。もしかすると、このまま入院することになっても妻は意外に冷淡かもしれない。(渡辺淳一 1990『うたかた』)
- (94) 男の目で見られている、と思うと軽い緊張に襲われた。(藤田宜永 2004『密事』)

例(86)～(94)から、「軽い」は物事の程度が低いという意味を表すことが分かる。(86)、(87)の「軽い」は、症状や怪我は程度が低く、あまり心配する必要がないという意味を表す。(88)の「軽い」は、甘みや苦みなど人間が味わう味の程度が低く、強烈な味がしないという意味を表す。

例(89)、(90)の「軽い」は、疲労や頭痛など体の具合が少し悪いという意味を表す。例(91)、(92)の「軽い」は、運動やキスなどの動作の程度が低いという意味を表す。また、例(93)、(94)の「軽い」は、ショックや緊張などの感情の程度が低いという意味を表す。

意味⑧と共起する名詞は、具体的な物質でも抽象的なものでも可能であるが、抽象的なものを多く占めている。以下、意味⑧と共起する名詞を挙げる。

表 2 5 連体修飾・述語用法における「軽い」の意味⑧と共起する名詞

	共起する名詞 (軽い+名詞・名詞+助詞+軽い)
意味⑧	病気、障害、罪、症状、沈黙、話、口調、仕事、吐息、問題、作業、内容、処分、痛み、悲しみ、罰、衝撃、不安、副作用、料理、生理、疲労、事件、作品、映画、爆発、責め、静寂、風、香り、傷害、悲嘆、犠牲、霧、影響、味、期待、馬場、坂、浮気、冗談、汚れ、驚き、ショック、トラウマ、近視、運動、体操、めまい、マッサ

	一ジ、接触、非難、抵抗、キス、頭痛、発作、痛み、痒み、吐き気、痺れ、咳、風邪、刺激、興奮、失望、後悔、緊張、嫉妬、不快、いびき、あいさつ、返事、主張、会話、睡眠、汚れ、肥満、歪み、異臭、脅かし、雨、違和感、挫折感、疑問、喧嘩、言い争い…
--	--

意味⑨<物事の重要度が><低い><さま>

意味⑨はある物や事の重要性が低いことを表す用法である。共起する名詞は地位や職位などの抽象的なものが多い。以下の例に基づき、物事がそれほど重要ではないという用法についてみよう。

(95) 「それが陛下の思召ならば従いますが、太傅のような重職では気が重い。もっと軽い役にして下さい」(三好徹 2003『三国志外伝』)

(96) 赤紙に例えて「人の命は一銭五厘」という言葉が皮肉っぽく使われた時代がありましたね。昔は本当に、人の命は紙よりも軽いと思われていたんですよね。哀しい時代です。そんな時代から一転してどんな命も尊ぶ時代、貴方の心はその流れに乗りきれないのですね。

(https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1148774771)

例(95)、(96)の「軽い」は、物事の重要性が低いという意味を表す。例えば、(95)の「軽い役」は、重要性が低い役を指している。例(96)の「(命が軽い)」は、命というものがそれほど重要ではないという意味を表す。

意味⑨と共起する名詞は、ほぼ抽象的なものであり、それらのものの重要性が低い意味を表す。以下、意味⑨と共起する名詞を挙げる。

表 2 6 連体修飾・述語用法における「軽い」の意味⑨と共起する名詞

	共起する名詞 (軽い+名詞・名詞+助詞+軽い)
意味⑨	地位、役割、道理、存在、命…

意味⑩<精神的に><軽率さ><を感じる><さま>

意味⑩は精神的に軽率さを感じる用法である。共起する名詞はほぼ男女、相手など人に関わるものである。以下の例は、精神的に軽率さを感じるさまを表す用法である。

(97) 「いや、いいんだ。軽い奴だと思われるのは慣れてるから。だけど、君のことは以前からその…いい子だなんて思ってたから…」
(柴田よしき 2002 『猫は聖夜に推理する』)

(98) 自分かなり軽い男なのですが、「今日も可愛いね」とかふつうに彼女でもない人に言ってしまいます。
(https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1039271195)

例(97)、(98)の「軽い」は、人の性格や行動に軽率さを感じるという意味を表す。

意味⑩と共起する名詞は人間を表すものである。人の性格や態度、行為に軽率さを感じる時に用いられる。以下、意味⑩と共起する名詞を挙げる。

表 2 7 連体修飾・述語用法における「軽い」の意味⑩と共起する名詞

	共起する名詞 (軽い+名詞・名詞+助詞+軽い)
意味⑩	人 (女性・男性)、相手、彼氏、彼女、友達、子、奴…

意味⑪<音声が><小さく厚みがない><さま>

意味⑪は音や声が小さく厚みがないことを表す用法である。そのため、共起する名詞は音声、声に限られる。以下の例は、音声が小さく厚みがないことを表す用法である。

(99) 声が聞こえる頃にはもう、ちん、と軽い音を立てて刃が鞘に戻っている。(友野詳 2001 『黄金の輝きを!』)

(99)では、文中の「ちん」からわかるように、ここの「軽い」は音や声が小さく、厚みがない様子を表す。

意味⑪と共起する名詞は音声に関わる抽象的なものである。以下、意味⑪

と共起する名詞を挙げる。

表 2 8 連体修飾・述語用法における「軽い」の意味⑪と共起する名詞

	共起する名詞（軽い＋名詞・名詞＋助詞＋軽い）
意味⑪	音声、音色、声、足音、響き…

意味⑫<明度が><高い><さま>

意味⑫は色の明度が高いことを表す用法である。そのため、共起する名詞は色に関わるものである。以下の例は、明度が高いことを表す用法である。

(100) 明度が高い明るい色は軽く感じ、明度が低い暗い色は重たく感じます。最も軽い色は白で、最も重い色は黒になります。

(<https://kimoto-sbd.co.jp/tsutatsukulab/2018/01/21771/>)

前に述べたように、明度が低いほうが重量があるように感じ、明度が高いほうが重量が軽いと感じる。そのため、「軽い」は色と関する名詞と共起すると、色の明度が高いという意味を表すことになる。

意味⑫と共起する名詞は色に関わる抽象的なものである。以下、意味⑫と共起する名詞を挙げる。

表 2 9 連体修飾・述語用法における「軽い」の意味⑫と共起する名詞

	共起する名詞（軽い＋名詞・名詞＋助詞＋軽い）
意味⑫	色、色彩…

意味⑬<態度が><軽率である><さま>

意味⑬は態度が軽率である様子を表す用法である。共起する名詞は態度や調子、表現など抽象的なものである。以下の例に基づき、態度が軽率であることを表す用法についてみよう。

(101) 自殺じゃないのかな、と田村は言った。その軽い調子に憤りを覚えながらも、俺は田村に礼を言うとその場を離れた。（日本推理作家協会編 2004『鍵』）

(102) 「こうした軽い発言がある中で今後、死刑の執行、大臣のもとで行えるんでしょうか」

(<https://news.yahoo.co.jp/articles/db089394e1ec3ccf67746612168c1cacb4fef8e2>)

以上の例における「軽い」は、行動や言論の態度が軽率であるという意
味を表す。例(94)は、軽率な態度で人の死因について推測したことを表
す。例(95)は、軽率な態度で発言したことを表す。

意味⑬と共起する名詞は抽象的なものである。現す態度が軽率であること
を表すときに使われる。以下、意味⑬と共起する名詞を挙げる。

表 3 0 連体修飾・述語用法における「軽い」の意味⑬と共起する名詞

	共起する名詞 (軽い+名詞・名詞+助詞+軽い)
意味⑬	調子、口調、表現、言い方、扱い、発言…

5. 2. 1. 1 連体修飾用法・述語用法における「軽い」と「重い」の比較

連体修飾・述語用法における「軽い」の意味用法は 5. 2. 1 節のように、ま
とめて 13 個ある。連体修飾・述語用法における「重い」の意味用法と比較
し、以下のように示す。

表 3 1 連体修飾・述語用法における「重い」と「軽い」の意味用法

「重い」の意味用法	「軽い」の意味用法
意味①<物質の重量を><多く> <感じる><さま>	意味①<物質の重量を><少なく> <感じる><さま>
意味②<物質の量を><食感・視 覚・触覚で><多く><感じ る><さま>	意味②<物質の量を><食感・触覚 で><少なく><感じる>< さま>
意味③<機械や道具などの操作が> <力を要する><さま>	意味③<機械や道具などの操作が> <力が要らない><さま>
意味④<物事や身体の動きが><鈍 い><さま>	意味④<物事や身体の動きが><速 い><さま>
意味⑤<身体の具合が><すぐれて いない><さま>	意味⑤<身体の具合が><いい>< さま>
意味⑥<気分が><沈む><さま>	意味⑥<気分が><楽である><さ ま>

意味⑦<背負う責任や負担を><多く><感じる><さま>	意味⑦<背負う責任や負担を><少なく><感じる><さま>
意味⑧<物事の程度が><はなはだし><さま>	意味⑧<物事の程度が><低い><さま>
意味⑨<物事の重要度が><高い><さま>	意味⑨<物事の重要度が><低い><さま>
意味⑩<感情的に><負担を><多く><感じる>	
	意味⑩<精神的に><軽率さ><を感じる><さま>
意味⑪<音声が><低く厚みがある><さま>	意味⑪<音声が><小さく厚みが無い><さま>
意味⑫<明度が><低い><さま>	意味⑫<明度が><高い><さま>
	意味⑬<態度が><軽率である><さま>

以上のように、「重い」の意味用法は12個あり、「軽い」の意味用法は13個ある。意味用法の違いについて、意味②、意味⑩と意味⑬に見られる。また、意味⑧は、対応する意味用法を表すが、共起する名詞に違うところがある。

「重い」の意味②は「物質の量を食感・視覚・触覚で多く感じるさま」、それぞれ「重い食感」「重い雲」「ジェルフアンデーションが重い」という例文が見られる。それに対して、「軽い」の意味②はその対義語として、食感・触覚で物質の量を少ないと感じる用法があるが、視覚で物質の量を少なく感じる用法がない。例えば、「重い」は、「重い空」「重い雲」のように視覚で空や雲の様子を多く感じることを表すことができるが、「軽い」は「軽い空」「軽い雲」など、視覚で雲の量が少なく感じることを表さない。「重い空」「重い雲」が言えるが「軽い空」「軽い雲」が言わないのは、「重い空」や「重い雲」は、単に雲や空の質量を多く感じる意味を表すのではなく、雨が降りそうな状態を指しているからであると考えられる。例えば、(22)の例では、「大雨が降りそうな状態の中で風が吹いていた」という意味を表している。これに対して、空が澄んでいたり、雲がない状態は、日本語では「天気がいい」「晴れた空」のように表現できるので、「軽い雲」「軽い空」のように言語化する必要がないと思われる。

(22) 空はきっぱりと晴れてくれず、重い雲の下を凍りつくような風が吹いていた。(北原亜以子 1997『雪の夜のあと』)

意味⑩では、「重い」は「相手が私にとって感情的に負担を多く感じる」という意味を表し、「軽い」は「相手が私にとって精神的に軽率さを感じる」という意味を表す。(52)の「彼氏は重い」は彼氏が私にとって心の負担になるという意味を表す。これに対して、(97)の「軽いやつ」は性格が軽率な人という意味を表し、話し手の感情から切り離して、「軽い」は人の属性・特徴を修飾している。つまり、意味⑩の「重い」は「感情形容詞」に対し、「軽い」は「属性形容詞」である。形容詞の機能として、客観的な性質・状態を表す「属性形容詞」と、主観的な感覚・感情を表す「感情形容詞」の二つに分ける見方がある(西尾 1972、柴谷 1978、寺村 1982、川端 1983)。本稿は「重い」と「軽い」を意味⑩に分類し、両方とも人と関わる名詞と共起するが、「重い」は相手に対して「負担を感じる」という感情を表し、「軽い」は相手自身の属性に対して「軽率」を感じる人が多いと思われる。意味⑩の「重い」と「軽い」はこのようなずれが見られる。樋口(1996)は、形容詞は「感情形容詞」と「属性形容詞」のどちらに属するかは、「使用」の問題に大きく依存し、明確に区別することが困難であると述べている。しかし、それぞれの形容詞はどちらかの性質を持っていることは否定できないと述べている。意味⑩では、「重い」はより「感情的形容詞」に傾く傾向があり、「軽い」はより「属性形容詞」に傾く傾向があると思われる。また、「重い」と「軽い」はそのプロトタイプ的意味が「具体的な質量」を表すものであり、属性形容詞である。つまり、「重い」の感情形容詞を表す用法は派生的な意味であると思われる。

「軽い」には、意味⑬のような「態度が軽率」を表す用法があるが、「重い」にはそれに対応する使い方がない。(101)、(102)のように、口調、表現など態度を表す語彙と共起する「軽い」は態度が軽率であるという意味を表す。用例からわかるように、あることに対して軽率な態度で応じることを表すのが一般的な使い方である。しかし、「重い」には、調子や表現などの語と共起しなく、この用法を持っていない。

以上では、「重い」と「軽い」の意味用法には、意味②、意味⑩と意味⑬という三つの違いがあることを見た。意味②では、「重い」は食感・視覚・触覚で物質の量を多く感じる。これに対し、「軽い」は食感・触覚で物質の量を少なく感じるが、視覚ではこの使い方をしないという違いがある。意味⑩では、「重い」と「軽い」はともに人と関わる名詞と共起し、相手の態度や行動、性格に対して心の負担を感じるか、軽率さを感じるという意味を表す

が、「重い」はより「感情的形容詞」に傾く傾向があり、「軽い」はより「属性形容詞」に傾く傾向があると思われる。意味⑬では、「軽い」は軽率な態度を表す意味があるが、「重い」はこのような使い方をしない。そのほかに、意味⑧のように、両者が同じな意味用法を持つと言えるが、共起する名詞が異なるものがある。

意味⑧は、「重い」も「軽い」も物事の程度のはなはだしさに関する意味であるが、共起する名詞に違いがある。まず、「重い」と「軽い」は以下の語彙と共起するときに、その物事の程度を表す。例えば、「症状」と共起する場合は、症状の程度がはなはだしい・深刻ではないということを表す。「罪」と共起する場合は、罪の程度がはなはだしい・低いということを表す。

表 3 2 連体修飾・述語用法における意味⑧と共起する名詞

意味⑧	形容詞「重い」	形容詞「軽い」
共起する名詞	症状、罪、沈黙、静寂、作品、話題、内容、問い、人生、不安、風、展開、甘み、苦味、攻撃、料理、食事、吐息、味、馬場、けが、傷...	

しかし、次の表が示すように、「軽い」は体の具合を表す名詞、動作性名詞、感情を表す名詞と共起するが、「重い」はそれらの名詞と共起しない。例えば、「軽い」は体の具合を表す名詞と共起する場合に、体の具合の程度が低いことを表す。「軽い」は動作性名詞と共起する場合に、動きがわずかであることを表し、感情を表す名詞と共起する場合に、感情の程度がわずかであることを表す。

表 3 3 連体修飾・述語用法における意味⑧の「軽い」だけと共起する名詞

意味⑧	形容詞「重い」	形容詞「軽い」
体の具合の名詞		疲れ、疲労、めまい、頭痛、発作、痛み、痒み、吐き気、痺れ、咳、風邪...
動作性名詞		運動、体操、マッサージ、接触、タッチ、抵抗、鼻歌、キス、あいさつ、会釈、返事、喧嘩、言い争い、脅かし、調整、浮気、非難、刺激、いびき、主張、会話、睡眠...
感情名詞		ショック、驚き、興奮、失望、後悔、緊張、嫉妬、不快...

「重い」は以上のような語彙と共起しない。体の具合と共起する「軽い」の対義語は「ひどい」、「すごい」、「激しい」などの程度形容詞がある。動作性名詞と共起する「軽い」の対義語は「強い」、「キツイ」、「激しい」、「長い」、「ひどい」などの程度形容詞がある。感情名詞と共起する「軽い」の対義語は「すごい」、「ひどい」などの程度形容詞がある。つまり、「重い」と「軽い」は意味⑧において意味が対応しているが、「軽い」は意味拡張が起こり、意味の範囲を拡大している現象が見られる。

5.2.2 連用修飾用法における「軽い」の意味用法

本節では、「軽い」の連用修飾用法における意味を検討する。

意味①<物質の重量を><少なく><感じる><さま>

意味①は具体的な物質の重量が少ないことを表す用法である。以下の例はその意味を表す用例である。

(103) 白い花のほうが軽く見えるので、ウンリュウヤナギの枝を少し多めに挿すとバランスが良くなります。(花時間 2001)

例(103)の「軽く見える」は、白い花の重量が少なく見えるという意味を表す。ここで「軽い」は物質の重量を少なく感じるという意味を表すと思われる。

意味①と共起する動詞は、以下のように挙げ、「軽い」は物質の重量を少なく感じるという意味を表す。

表 3 4 連用修飾用法における「軽い」の意味①と共起する動詞

	共起する動詞 (軽く + 動詞)
意味①	見える、感じる…

意味②<物事の程度が><低い><さま>

意味②は物事の程度が低いことを表す用法である。以下の例はその意味を表す用例である。

- (104) 重い罪を重く罰し、軽い罪を軽く罰していたのでは、ますます多くの刑罰を必要とし、混乱ばかり生じて国も衰亡する。(商鞅 1995 『商君書』)
- (105) フライパンにサラダ油を熱して軽く炒め、塩で調味する。(『簡単!おいしい!煮もの上手』2005)
- (106) 汗を流してから行きつけのバーに行き、知人たちと軽く飲む。(猪木寛至 2000 『アントニオ猪木自伝』)
- (107) 水やりはごく少なめで、水は1カ月に1回程度、土が軽く湿るくらい与えれば大丈夫です。(羽兼直行 2015 『多肉植物ハンディ図鑑』)

例(104)～(107)の「軽く」は、共起する動詞の程度が低いことを表す。例えば、(104)の「軽く罰する」は、刑罰の程度が低く、人にとって深刻ではない程度であるという意味を表す。(105)の「軽く炒める」は、炒める時間が短く、その動作の程度が低いという意味を表す。(106)の「軽く飲む」は、少し飲む、つまり、「飲む」の程度が低い意味である。(107)の「軽く湿る」とは、土がそれほど濡れていないという意味を表す。

意味②と共起する動詞は、以下のように挙げており、「軽く」は物事の程度が低いことを表す用法である。

表35 連用修飾用法における「軽い」の意味②と共起する動詞

	共起する動詞 (軽く+動詞)
意味②	罰する、処罰する、処分する、課税する、解釈する、運動する、触る、トーストする、振る、頷く、食べる、炒める、曲げる、抑える、握る、混ぜる、押す、会釈する、搾る、こする、撫でる、焼く、噛む、飲む、笑う、あしらう、引く、揉む、当てる、閉じる、すくめる、拭く、動かす、炙る、煮る、開く、睨む、ノックする、打つ、蹴る、茹でる、洗う、温める、マッサージする、合わせる、踏む、まぶす、挨拶する、揺する、掴む、ウインクする、通す、傾ける、塗る、引っ張る、弾む、かがめる、包む、咳き込む、鳴らす、巻く、微笑む、返す、チンする、刺す、塩漬ける、泡立てる 湿る、よどむ、病む、浮く、沈む、曇る、

意味③<物事の重要度が><低い><さま>

意味③は物事の重要性が低いことを表す用法である。以下の例はその意味を表す用例である。

(108) 事態は竜次君が思う以上に大きいと思う、軽く考えるな。(野上 かおり 2002 『な・つ・み』)

(109) あなたのために案内をしてくれる行為に対して、相手を軽く扱う言葉づかいをしないように気をつけましょう。(有村伊都子 2005 『敬語』)

以上の例における「軽く」は、物事の重要性が低いという意味を表す。例(108)の「軽く考える」は、軽視するという意味を表し、「軽く」は物事の重要度が低いという意味を表す。(109)の「軽く扱う」は重要ではないように接する意味を表し、「軽く」は重要性が低いという意味を表す。

また、意味③と共起する動詞は、以下のように挙げており、「軽く」は重要性が低い意味を表す用法である。

表 3 6 連用修飾用法における「軽い」の意味③と共起する動詞

	共起する動詞 (軽く+動詞)
意味③	考える、見る、扱う、捉える、聞こえる、思われる、扱われる…

意味④<態度が><軽率・気軽である><さま>

意味④は態度が軽率・気軽い様子を表す用法である。以下の例はその意味を表す用例である。

(110) 彼の渡し方が素っ気ないからといって、自分も「サンキュー」と軽く受け取るのは×。(a n ・ a n 2004)

(111) PUBのようなところより、軽く飲めてゆったりおしゃべりができる雰囲気というと…(略)最初は地ビール専門店にしようかと思ったが、そうだ！(<https://nyankosensee.blog.fc2.com/blog-date-200904-1.html>)

上記における「軽く」は、態度が気軽で、あるいは軽率であるという意味を表す。(110)の「軽く受け取る」は、軽薄な態度でものを受け取るという意味で、「軽く」は態度が軽率である意味を表す。(111)の「軽く飲める」は、気軽く酒を飲めるという意味で、「軽く」は態度が気軽であるという意味を表す。

また、意味④と共起する動詞は、以下のように挙げ、「軽く」は態度が気軽・軽率であるさまを表す。

表37 連用修飾用法における「軽い」の意味④と共起する動詞

	共起する動詞（軽く＋動詞）
意味④	言う、答える、飲める、公開する、聞こえる、受け止める、取る、受け取る…

意味⑤<簡単に><できる><さま>

意味⑤はあることが簡単にできることを表す用法である。以下の例はその意味を表す用例である。

(112) 発足後四年の三六年には、愛国婦人会の会員数を軽く突破し、その後も両者の懸隔はひらく一方だった。(加納実紀代 1987『女たちの<銃後>』)

(113) 「朝っぱらからすき焼き三人前平らげておきながら、何が『お腹の調子が良くない』だ?」「だって調子良かったら十人前は軽く平らげてるもん」(佐藤ケイ 2001『天国に涙はいらない』)

以上の例における「軽く」は、容易にあることができるという意味を表す。(112)の「軽く突破する」は、容易に愛国婦人会の会員数を超えるという意味で、「軽く」は容易に、簡単にできる様子を表す。(113)の「軽く平らげる」は、簡単に十人前の料理を食べてしまうという意味で、「軽く」は簡単にある動作をすることができるという意味を表す。

また、意味⑤と共起する動詞は、以下のように挙げており、「軽く」はあることを容易にできる様子を表す用法である。

表38 連用修飾用法における「軽い」の意味⑤と共起する動詞

	共起する動詞（軽く＋動詞）
--	---------------

意味⑤	超える、突破する、流す、超す、できる、受け流す、済む、もつ、かわす、とられる、一蹴する、上回る、こなす、凌ぐ、オーバーする、クリアする、受け止める、おさまる、作れる、取れる、信じる、吹き飛ばす、吹っ飛ばす、平らげる、快勝する、打ち破る、撃破する、破壊する、笑い流す、粉碎する、蹴り倒す、蹴り飛ばす、追い越せる、飛び越える…
-----	---

5.2.2.1 連用修飾用法における「軽い」と「重い」の比較

連用修飾用法における「軽い」の意味用法は5個ある。連用修飾用法における「重い」の意味用法と比較し、以下のように示す。

表39 連用修飾用法における「重い」と「軽い」の意味用法

「重い」の意味用法	「軽い」の意味用法
意味①<物質の重量を><多く><感じる><さま>	意味①<物質の重量を><少なく><感じる><さま>
意味②<物事の程度が><はなはだしい><さま>	意味②<物事の程度が><低い><さま>
意味③<物事の重要度が><高い><さま>	意味③<物事の重要度が><低い><さま>
	意味④<態度が><軽率・気軽である><さま>
	意味⑤<簡単に><できる><さま>

以上のように、「重い」の意味用法は3個、「軽い」の意味用法は5個ある。意味用法の違いについて、意味④と⑤は動詞と共起する「軽い」にしか見られない。例えば、例(110)、(111)のように、「軽い」は「言う」「受け取る」などの動詞と共起するときに、気軽な態度を表す。例(112)、(113)のように、「軽い」は「超える」「突破する」などの動詞と共起するときに、簡単にある動作をすることができる様子を表す。しかし、「重い」にはそれに対応する意味用法がない。なお、連用修飾用法における「軽い」の意味④は、連体修飾用法・述語用法における「軽い」の意味⑥、⑬に対応するものである。

対応する意味用法でも、共起する動詞が異なるものがある。例えば、意味

②では、「重い」と「軽い」がともに「罰する」「処分する」「湿る」などの動詞と共起し、「ある事物の程度がはなはだしい・低い」という意味を表す。

「軽い」は、さらに「運動する」「挨拶する」「食べる」「笑う」「睨む」などの動作性動詞と共起し、動きが僅かであることを表す。例えば、「運動する」と共起したら、運動という動きの程度がわずかであることを表す。「食べる」と共起したら、食事の量の程度が低いということを表す。しかし、「重い」はそれらの動詞と共起しない。動作性動詞と共起する「軽い」の対義語として、「激しい」、「多い」、「ひどい」などの形容詞がある。ここでも「軽い」の連体修飾用法・述語用法で見られたように、「軽い」は連用修飾用法において意味拡張が起こり、意味の範囲が拡大している現象が見られる。

表40 連用修飾用法における意味②の「重い」、「軽い」と共起する動詞

意味②	形容詞「重い」	形容詞「軽い」
(共通に)共起する動詞	罰する、処罰する、処分する、課税する、湿る、よどむ、病む、沈む、濁る、曇る…	
動作性動詞		解釈する、運動する、触る、トーストする、振る、頷く、食べる、炒める、曲げる、抑える、握る、混ぜる、押す、会釈する、搾る、こする、撫でる、焼く、噛む、飲む、笑う、あしらう、引く、揉む、当てる、閉じる、すくめる、拭く、動かす、炙る、煮る、開く、睨む、ノックする、打つ、蹴る、茹でる、洗う、温める、マッサージする、合わせる、踏む、まぶす、挨拶する、揺する、掴む、ウィンクする、通す、傾ける、塗る、引っ張る、弾む、かがめる、包む、咳き込む、鳴らす、巻く、微笑む、返す、チンする、刺す、塩漬けする、泡立てる…

5.3 まとめ及び先行研究との接点

本稿は、認知言語学の理論で形容詞「重い」と形容詞「軽い」の意味を考

察して記述した。それによって、意味の対応している部分と対応していない部分が明らかとなった。具体的に、連体修飾・述語用法の場合は、意味②、⑩、⑬という意味用法が対応せず、連用修飾用法の場合は、意味④、⑤という意味用法が対応していないということである。また、意味用法が対応しているが、共起するものが少し異なるものもあることがわかった。それは、連体修飾・述語用法における意味⑧と連用修飾用法における意味②である。

2節で述べたように、先行研究の問題点は2つある。一つ目は、楊(2012)は「重い」と「軽い」の意味用法を検討していたが、その分類法に収まらない用例があったり、同じ意味分類の中で違う意味を表すものがあったりすることである。二つ目は、楊(2012)と李(2020)は、「重い」と「軽い」に非対称的な部分を指摘していたが、まだ解明していない部分があるということである。

本稿は、認知言語学の方法で「重い」と「軽い」の意味用法を検討した上に、その非対称性を考察したことによって、先行研究の二つの問題点を解決した。4.6節では、一つ目の問題点の解決について述べたため、以下では二つ目の問題点の解決について詳しく述べる。

先行研究の楊(2012)と李(2020)では、「重い」と「軽い」が反対語としての非対称性を指摘している。例えば、楊(2012)では、「軽い」は「運動、食事、読書」、「作業、料理」「超える、上回る」と関わる名詞や動詞と共起するが、「重い」にはこの用法がない。李(2020)では、「軽く殴る」の反対表現は「強く殴る」であり、「重く殴る」ではないことが指摘されている。しかし、先行研究では、「重い」と「軽い」の非対称性についてそれ以上の説明がされていない。

本稿では、「重い」と「軽い」の非対称性についてまだ解明していない部分があると考え、一節を設けて考察を行った。この問題点を解決するために、「重い」と「軽い」の意味用法をそれぞれ連体修飾用法・述語用法と連用修飾用法に分けて考察し、「重い」と「軽い」の対応している用法と対称していない用法を明らかにした。

まず、連体修飾用法・述語用法など名詞と共起する場合について、楊(2012)は「軽い」が「運動、食事、読書」、「作業、料理」と関わる名詞と共起するが、「重い」にはこの使い方をしないと指摘している。本稿では、楊(2012)が挙げた「運動、食事、読書」、「作業、料理」と関わる名詞を意味⑧「物事の程度がはなはだしい/低い」と分類した。「重い」と「軽い」は、

両方とも意味⑧という用法があるが、共起する名詞が少し異なるものがある。楊 (2012) が挙げた「運動、食事、読書」、「作業、料理」はその一つである。本稿では、「運動、食事、読書」「作業、料理」のような語彙を動作性名詞と分類する。動作性名詞は「軽い」が用いられるが、「重い」が用いられないグループの一つとして、5.2.1.1 節で説明し、楊 (2012) が挙げた「運動、食事、読書」「作業、料理」以外の動作性名詞も含めて表 33 で示した。

「重い」は動作性名詞と共起しなく、動作の程度がはなはだしいという意味を表さない。一方、動作性名詞と共起する「軽い」の対義語は「強い」「キツイ」「ひどい」などの形容詞がある。また、「運動、食事、読書」「作業、料理」のような動作性名詞のほかに、「軽い」と共起し「重い」と共起しない名詞にはさらに2種類の名詞グループがあることがわかった。一つは、「疲労」「頭痛」のような体の具合と関わる名詞である。「軽い」は「疲労」と共起したら、疲労の程度が低いことを表す。「頭痛」と共起したら、頭痛の程度が低いことを表す。しかし、「重い」は体の具合と関わる名詞と共起しなく、体の具合の程度がはなはだしいという意味も表さない。体の具合と関わる名詞と共起する「軽い」の対義語は「ひどい」「すごい」「激しい」などの形容詞がある。もう一つ「軽い」と共起し「重い」と共起しないグループは、「興奮」「失望」「後悔」のような感情名詞である。「軽い」は「興奮」と共起したら、興奮の程度がわずかであることを表す。「失望」と共起したら、失望の程度がわずかであることを表す。「後悔」と共起したら、後悔の程度がわずかであることを表す。「重い」は感情名詞と共起しなく、感情の程度がはなはだしいという意味も表さない。感情名詞と共起する「軽い」の対義語は「すごい」「ひどい」などの形容詞がある。

なお、連体修飾用法・述語用法など名詞と共起する場合について、楊 (2012) が挙げた「運動、食事、読書」、「作業、料理」のような動作性名詞を含めた意味⑧のほかに、「重い」と「軽い」の非対称的な意味用法があることもわかった。それは意味②、意味⑩と意味⑬である。意味②では、「重い」は「重い食感」、「重い雲」、「ジェルフアンデーションが重い」など、「物質の量を食感・視覚・触覚で多く感じる」という意味を表すが、「軽い」は「物質の量を食感・触覚で少なく感じる」ことを表し、「軽い雲」や「軽い空」のような視覚で物質の量が少ないと感じる意味を表さない。このようなずれが生じる理由について、「重い雲」や「重い空」は単に雲や空の質量を多く感じる意味を表すのではなく、雨が降りそうな状態を指しているからである。つまり、雨が降る寸前の様子を「重い雲」、「重い空」で表現するのである。逆に、日常で「雨が降りそうではない」状態をわざわざ言うことが少ない。直接に「晴れた空」や「天気がいい」などと言っているため、「軽い雲」「軽い空」のように言語化する必要がないと思われる。

意味⑩では、「重い」と「軽い」はともに人と関わる名詞と共起し、「重い」は「相手が私にとって感情的負担になる」という意味で、「軽い」は「相手に対して精神的に軽率さを感じる」という意味である。しかし、同じ人と関わる名詞と共起し、人の性格や行動を表すと言っても、少し異なるところがある。それは使い方の偏りである。「重い」はより相手の行動や態度に対して主観的な感情を表すものであり、「軽い」はより相手の性格や属性を表すものである。そのため、意味⑩では、形容詞「重い」はより「感情的形容詞」に傾く傾向があり、形容詞「軽い」はより「属性形容詞」に傾く傾向がある、という違いがあると思われる。

意味⑬は「態度が軽率である」という意味で、「軽い」にのみある。「重い」にはこの用法がない。「軽い」は調子、表現のような態度を表す名詞と共起し、態度が軽率である様子を表す。例えば、「軽い発言」は、軽率な態度で発言をするという意味を表す。「重い」は調子や表現など態度を表す名詞と共起しなく、態度の状態も表さない。

続いて、連用修飾用法など動詞と共起する場合について、楊（2012）は「超える、上回る」、李（2020）は「殴る」という動詞が「軽い」としか共起しないと指摘している。本稿では、「超える、上回る」という動詞と共起する「軽い」の意味を意味⑤と定義し、「殴る」と共起する「軽い」の意味を意味②と定義した。まず、意味②では、「重い」と「軽い」はともに「罰する」、「湿る」などの動詞と共起し、「ある物事の程度がはなはだしい・低い」という意味を表す。しかし、同じ意味を表しても、共起する動詞に違うものがある。李（2020）が挙げた「殴る」はその一つである。本稿は、「殴る」を「運動する」「キスする」「食べる」「泣く」などの動詞とともに動作性動詞に分類し、それらの動詞は「軽い」と共起するが、「重い」と共起しないことを解明した。「軽い」は動作性動詞と共起すると、動作の程度がわずかである意味を表す。「重い」は動作性動作と共起しなく、動作の程度を表す用法もない。かわりに、「軽い」の意味②の対義語として、「激しい」、「多い」、「ひどい」などの形容詞がある。一方、楊（2012）が挙げた「超える、上回る」と共起する「軽い」の意味を意味⑤と定義し、「簡単に何かをできる」様子を表す意味である。例えば、「軽く超える」、「軽く上回る」とは、簡単に誰かを、ある事を凌駕することを表す。楊（2012）が挙げた「超える、上回る」のほかに「軽い」と共起し、「簡単に何かをできる」意味を表す動詞を表38にまとめた。

さらに、本稿の分類方法によって、「軽い」と共起し、「重い」と共起しな

い動詞のグループはほかにもあることがわかった。それが意味④である。「軽い」は「言う」「答える」「受け取る」などの動詞と共起するときに、軽率・気軽な態度を表すことになる。「重い」にはこの意味用法がない。

以上のように、本稿の考察対象である「重い」と「軽い」を連体修飾用法・述語用法と連用修飾用法に分けて、意味用法を検討し分類した。先行研究の楊（2012）が挙げた「運動、食事、読書」「作業、料理」を連体修飾用法・述語用法における意味⑧と分類し、「運動、食事、読書」「作業、料理」のような名詞を動作性名詞とし、それらの名詞は「軽い」と共起するが、「重い」と共起しないことを判明した。また、意味⑧には、「軽い」は動作性名詞のほかに、感情名詞と、体の具合と関わる名詞と共起するが、「重い」と共起しないことについて楊（2012）が述べていないものであるが、本稿で判明した。楊（2012）が挙げた「超える、上回る」を連用修飾用法における意味⑤と分類し、「超える、上回る」以外の動詞も含めて、「気軽な態度」を表す意味と、「軽い」としか共起しないことを判明した。李（2020）が挙げた「殴る」を連用修飾用法における意味②と分類した。「重い」と「軽い」は「罰する」、「処分する」などの動詞と共起し、意味②の「ある物事の程度がはなはだしい・低い」という意味を表すが、李（2020）が挙げた「殴る」のような動作性動詞は「軽い」としか共起しないことを明らかにした。

また、本稿の考察によって、先行研究で提出していない、「重い」と「軽い」の非対称性があるところも明らかにした。それが、連体修飾用法・述語用法における意味②、意味⑩と意味⑬、連用修飾用法における意味④のことである。連体修飾用法・述語用法における意味②では、「重い」は「物質の量を食感・視覚・触覚で多く感じる」という意味であるが、「軽い」は「物質の量を食感・触覚で少なく感じる」という意味で、「軽い雲」や「軽い空」のような視覚で物質の量が少ないと感じる意味を表さない。その理由として、「重い雲」や「重い空」を言うときに、雲や空が重そうに見えることを伝えたいだけではなく、「雨が降りそう」という意味も含めて、雨が降る寸前の様子である「重い雲」、「重い空」で雨が降ることを表す。しかし、「軽い雲」「軽い空」で「雨が降らない」ことを伝えないし、かわりに「晴れた空」や「天気がいい」と言っていると考えられる。連体修飾用法・述語用法における意味⑩では、「重い」と「軽い」はともに人と関わる名詞と共起し、「重い」は「相手が私にとって感情的に負担を多く感じる」という意味で、「軽い」は「相手が私にとって精神的に軽率さを感じる」という意味である。しかし、使い方に偏りがあると見える。形容詞「重い」はより「感情的形容詞」に傾く傾向があり、形容詞「軽い」はより「属性形容詞」に傾く傾向がある、という違いがあると思われる。連体修飾用法・述語用法における意味⑬は、「態

度が軽率である」という意味で、「軽い」しか持っていない用法である。「重い」にはこの用法がない。連用修飾用法における意味④は、「軽率・気軽な態度」という意味を表す。「軽い」だけが用いられるが、「重い」はこの意味用法がないことがわかった。

この節では、「軽い」の意味用法を検討し、「重い」と比較して意味が対応している部分と対応していない部分を考察した。先行研究の楊（2012）が挙げた「運動、食事、読書」「作業、料理」「超える、上回る」、李（2020）が挙げた「殴る」を分類した。ほかに、先行研究で提出していない、「重い」と「軽い」の非対称性があることも明らかにした。それが、連体修飾用法・述語用法における意味②、意味⑩と意味⑬、連用修飾用法における意味④と意味⑤のことである。連体修飾用法・述語用法における意味②、意味⑩の非対称的な部分について述べた。しかし、「重い」と「軽い」の非対称性として、連体修飾用法・述語用法における意味⑬と、連用修飾用法における意味④、意味⑤はなぜ「軽い」としか共起しないのかについて、まだ明らかになっていない部分がある。連体修飾用法・述語用法における意味⑧と連用修飾用法における意味②では、「重い」と「軽い」の共起するものに非対称的な部分があるのはなぜか、まだ明らかになっていない部分があるため、それを今後の課題としたい。

第6章 結論

6.1 本研究のまとめ

本稿は、4節で形容詞「重い」の意味用法を再検討し、認知言語学の理論で「重い」の複数の意味間の関連性を考察した。また、5節で形容詞「軽い」の意味用法を考察し、「重い」との非対称的な部分を解明した。

4節で「重い」の意味用法を連体修飾用法・述語用法と連用修飾用法に分けて分類した。また、「重い」の複数の意味間の関連性について、認定能力を基盤とするメタファー、メトニミー、スキーマ関係、フレーム関係で関連付けた。

まず、連体修飾用法・述語用法における「重い」の意味を次のように示す。

連体修飾用法・述語用法における「重い」の意味分類

- 意味①<物質の重量を><多く><感じる><さま>
- 意味②<物質の量を><食感・視覚・触覚で><多く><感じる><さま><>
- 意味③<機械や道具などの操作が><力を要する><さま>
- 意味④<物事や身体の動きが><鈍い><さま>
- 意味⑤<身体の具合が><すぐれていない><さま>
- 意味⑥<気分が><沈む><さま>
- 意味⑦<背負う責任や負担を><多く><感じる><さま>
- 意味⑧<物事の程度が><はなはだしい><さま>
- 意味⑨<物事の重要度が><高い><さま>
- 意味⑩<感情的に><負担を><多く><感じる>
- 意味⑪<音声が><低く厚みがある><さま>
- 意味⑫<明度が><低い><さま>

意味①をプロトタイプの意味(中心義)と認定した。意味②は、「量を多く感じる」という類似性において、意味①からメタファーによって拡張したものである。意味③は、重量が重いから動作の操作に力が必要となるという因果関係において、意味①からメトニミーによる拡張である。意味④は、重量を多く感じる時に動作が遅く、鈍くなるという因果関係において、意味①からメトニミーによる拡張である。

意味⑤は、体が受けた刺激や苦痛など「抽象的な量を多く感じる」という

類似性において、意味②からメタファーによって拡張したものである。意味⑥は、落ち込んだ気分という「抽象的な量を多く感じる」という類似性において、意味②からメタファーによって拡張したものである。

意味⑦は、人が背負う重量を多く感じるという「抽象的な量を多く感じる」という類似性において、意味②からメタファーによって拡張したものである。意味⑧は、程度がはなはだしく感じるという「抽象的な量を多く感じる」という類似性において、意味②からメタファーによって拡張したものである。意味⑨は、重要性が高いと感じるという「抽象的な量を多く感じる」という類似性において、意味②からメタファーによって拡張したものである。意味⑩は、「精神的な負担を多く感じる」という類似性において、意味⑦からメタファーによって拡張したものである。

意味⑪は、音が低いと人に重たいイメージをもたらすという因果関係において、意味①からメトニミーによる拡張である。意味⑫は、明度が低いものが人に重たいイメージをもたらすという因果関係において、意味①からメトニミーによる拡張である。

また、意味②、⑦、⑩にはスキーマ(a)というスキーマ関係、意味⑥、⑦、⑩にはスキーマ(b)というスキーマ関係を抽出できると考えられる。

スキーマ(a) : <物事から><受けた刺激や感じが><多い><さま>
スキーマ(b) : <負担を><多く><感じる><さま>

以上のようなメタファー、メトニミー、スキーマ関係による意味拡張を図1の多義ネットワークモデルを構成した。

なお、①、③、④、⑪、⑫における相互関係を確認し、この五つの意味を基盤する「重量に関わる影響」というフレームをなすことができると思われる。それらの関係を図2で示した。

続いて、連用修飾用法における「重い」の意味を次のように示す。

連用修飾用法における「重い」の意味分類

意味①<物質の重量を><多く><感じる><さま>
意味②<物事の程度が><はなはだしい><さま>
意味③<物事の重要度が><高い><さま>

意味①をプロトタイプの意味(中心義)と認定した。意味②と③は、それぞれ物事の程度がはなはだしいという「量を多く感じる」ところ、重要性が高いという「量を多く感じる」という類似性において、意味①からメタファーによる拡張である。

以上のようなメタファー、メトニミーによる意味拡張を図3の多義ネットワークモデルを構成した。

5節で「軽い」の意味用法を連体修飾用法・述語用法と連用修飾用法に分けて分類した。また、「重い」との非対称的な部分について考察を行った。

まず、「軽い」の意味を次のように示す。

連体修飾用法・述語用法における「軽い」の意味分類

- 意味①<物質の重量が><少なく><感じる><さま>
- 意味②<物質の量を><食感・触覚で><少なく><感じる><さま>
- 意味③<機械や道具などの操作が><力が要らない><さま>
- 意味④<物事や身体の動きが><速い><さま>
- 意味⑤<身体の具合が><いい><さま>
- 意味⑥<気分が><楽である><さま>
- 意味⑦<背負う責任や負担を><少なく><感じる><さま>
- 意味⑧<物事の程度が><低い><さま>
- 意味⑨<物事の重要度が><低い><さま>
- 意味⑩<精神的に><軽率さ><を感じる><さま>
- 意味⑪<音声が><小さく厚みがない><さま>
- 意味⑫<明度が><高い><さま>
- 意味⑬<態度が><軽率である><さま>

連用修飾用法における「軽い」の意味分類

- 意味①<物質の重量を><少なく><感じる><さま>
- 意味②<物事の程度が><低い><さま>
- 意味③<物事の重要度が><低い><さま>
- 意味④<態度が><軽率・気軽である><さま>
- 意味⑤<簡単に><できる><さま>

続いて、「重い」との非対称的な部分について、連体修飾用法・述語用法における意味②、⑩、⑬が対応していない。また、意味⑧という意味用法が対応しているが、共起する名詞が少し違いがある。連用修飾用法における意味

④、⑤が対応していない。また、意味②という意味用法が対応しているが、共起する動詞が少し違いがある。

連体修飾用法・述語用法における意味②が対応していない部分について、「重い」は「重い雲」「重い空」のように「物質の量を視覚で多く感じる」ことを表すが、「軽い」は「軽い雲」「軽い空」などの表現をしない。その理由として、「重い空」や「重い雲」は、単に雲や空の質量を多く感じる意味を表すのではなく、雨が降りそうな状態を指している。その代わりに、空が澄んでいたり、雲がない状態は、日本語では「天気がいい」「晴れた空」で表現できるので、「軽い雲」「軽い空」のように言語化する必要がないと思われる。

連体修飾用法・述語用法における意味⑩が対応していない部分について、「彼氏は重い」は彼氏が私にとって心の負担になるという意味を表す。これに対して、「軽いやつ」は性格が軽率な人という意味を表し、話し手の感情から切り離して、「軽い」は人の属性・特徴を修飾している。つまり、意味⑩の「重い」は「感情形容詞」に対し、「軽い」は「属性形容詞」であると思われる。

連体修飾用法・述語用法における意味⑬が対応していない部分について、「軽い」には「態度が軽率」を表す用法があるが、「重い」にはそれに対応する使い方がないということが判明した。

連体修飾用法・述語用法における意味⑧は対応しているが、共起する名詞が少し違いがある。「軽い」は体の具合を表す名詞、動作性名詞、感情を表す名詞と共起するが、「重い」はそれらの名詞と共起しない。それらの名詞を表33で示した。また、体の具合と共起する「軽い」の対義語は「ひどい」、「すごい」、「激しい」などの程度形容詞がある。動作性名詞と共起する「軽い」の対義語は「強い」、「キツイ」、「激しい」、「長い」、「ひどい」などの程度形容詞がある。感情名詞と共起する「軽い」の対義語は「すごい」、「ひどい」などの程度形容詞がある。

連用修飾用法における意味④、⑤が対応していない部分について、「軽い」には「態度が軽率・気軽」、「簡単に(ある動作をすることが)できる」を表す用法があるが、「重い」にはそれに対応する使い方がないということが判明した。

連用修飾用法における意味②は対応しているが、共起する名詞が少し違いがある。「軽い」は動作性動詞と共起するが、「重い」はそれらの動詞と共起しない。それらの名詞を表 40 で示した。また、動作性動詞と共起する「軽い」の対義語として、「激しい」、「多い」、「ひどい」などの形容詞がある。

6.2 今後の課題

本稿では、形容詞「重い」と「軽い」の意味用法を再検討した。認知言語学の理論で「重い」の複数の意味間の関連性を考察した。また、「重い」と「軽い」の非対称性を解明した。

今後の課題として、「重い」の意味用法を分析した際に「足が重い」「口が重い」などの慣用句を考察対象から外したが、今後の課題としたい。「重い」と「軽い」の非対称性について、連体修飾用法・述語用法における意味②、⑩、⑬、連用修飾用法における意味④、⑤は対応していないことがわかった。連体修飾用法・述語用法における意味②、⑩の非対称的な部分について 5.2.1.1 節で述べた。しかし、連体修飾用法・述語用法における意味⑬と、連用修飾用法における意味④、⑤はなぜ「軽い」としか共起しないのかについて、まだ解明していない部分がある。連体修飾用法・述語用法における意味⑧と連用修飾用法における意味②は対応しているが、共起するものが少し異なるのはなぜかということについても、まだ明らかになっていない部分がある。

なお、名詞と共起する形容詞「重い」と「軽い」の連体修飾用法・述語用法を同じ用法にしたが、「胃が重い」は言えるが「重い胃」は言わないように、述語用法だけ持っているものがある。逆に、「重い存在」は言えるが「存在が重い」は言わないように、連体修飾用法だけ持っているものもある。「重い」と「軽い」に見られる連体修飾用法・述語用法の非対称性は今後の課題としたい。

参考文献

- 池上嘉彦 (1975) 『意味論』、大修館書店
- 池上嘉彦・山梨正明 (2020) 『認知言語学I』、ひつじ書房
- 川端善明 (1983) 「副詞の条件—叙法の副詞組織から—」『副用語の研究』、明治書院
- 国広哲彌 (1982) 『意味論の方法』、大修館書店
- 国広哲彌 (1985) 「認知と言語表現」『言語研究 = Journal of the Linguistic Society of Japan / 日本言語学会 編』88、pp.1-19
- 佐藤信夫 (1978) 『レトリック感覚』、講談社
- 佐藤信夫・佐々木健一・松尾大 (2006) 『レトリック事典』、大修館
- 柴谷方良 (1978) 『日本語の分析』、大修館書店
- 瀬戸賢一 (2007) 「メタファーと多義語の記述」『メタファー研究の最前線』pp. 31-61、ひつじ書房
- 谷口一美 (2003) 『認知意味論の新展開—メタファーとメトニミ』、研究社
- 寺村秀夫 (1982) 『日本語のシンタクスと意味 I』、くろしお出版
- 西尾寅弥 (1972) 『形容詞の意味・用法の記述的研究』国立国語研究所報告 44、秀英出版
- 西村義樹 (2008) 『ことばのダイナミズム』、くろしお出版
- 野村益寛 (2012) 『ファンダメンタル認知言語学』、ひつじ書房
- 樋口文彦 (1996) 「形容詞の分類—状態形容詞と質形容詞」『ことばの科学7』pp. 39-60、むぎ書房
- 松本曜 (2003) 『認知意味論』、大修館書店
- 松本曜 (2009) 「多義語における中心的意味とその典型性：概念的中心性と機能的中心性」『Sophia linguistica』57、pp. 89-99
- 宮地裕編 (1982) 『慣用句の意味と用法』、明治書院
- 靱山洋介 (1992) 「多義語の分析—空間から時間へ—」カッケンブッシュ 寛子他編『日本語研究と日本語教育』、名古屋大学出版会、pp. 185-199
- 靱山洋介 (1994) 「形容詞『カタイ』の多義構造」『名古屋大学日本語・日本文化論集』、名古屋大学留学生センター、pp. 65-90
- 靱山洋介 (1995) 「多義語のプロトタイプの意味の認定の方法と実際—意味転用の一方向性：空間から時間へ—」『東京大学言語学論集』14、pp. 621-639
- 靱山洋介 (2020) 『実例で学ぶ認知意味論』、研究社
- 靱山洋介 (2021) 『[例解]日本語の多義語研究—認知言語学の視点から』、大修館書店
- 森田良行 (1966) 「慣用的な言い方」『講座日本語教育』2、pp. 61-78

- 山梨正明 (1988) 『比喩と理解』、東京大学出版会
- 楊婧瑋 (2012) 「軽重を表す形容詞『軽い』『重い』『軽』『重』についての日中対照研究」『日中語彙研究』2、愛知大学中日大辞典編纂所、pp. 25-47
- 李文鑫 (2020) 「中国語の共感覚的比喩における〈強〉〈重〉の使いわけとその要因:一日本語との比較を通して一」『ことば: 研究誌』41、pp. 53-70
- Boroditsky, L. (2000) Metaphoric structuring: Understanding time through spatial metaphors. *Cognition*, 75
- Barbara Dancygier, Eve Sweetser (2020) *Figurative Language*. (野村益寛・眞田敬介・山添秀剛・對馬康博・水野優子 (訳) 2020. 『「比喩」とは何か—認知言語学からのアプローチ—』開拓社)
- Fillmore, C. J. (1982) Frame Semantics. *Linguistics in the Morning Calm*. pp. 111-137. Seoul: Hanshin Publishing
- Fillmore, C. J. (1985) Frames and the semantics of understanding. *Quaderni di Semantica* 6.
- Fillmore, Charles J. and Colin Baker (2010) A frames approach to semantic analysis. In B. Heine and H. Narrog (eds.) *The Oxford Handbook of Linguistic Analysis*, 313-340. Oxford: Oxford University Press.
- Gibbs, R. (1994) *The Poetics of Mind: Figurative Thought, Language, and Understanding*, Cambridge: Cambridge University Press. (辻幸夫, 井上逸兵 (監訳) 2008. 『比喩と認知』研究社)
- Lakoff, George & Johnson, Mark (1980) *Metaphors we live by*. Chicago; London, United States: University of Chicago Press. (渡部昇一・楠瀬淳三・下谷和幸 (訳) 1986. 『レトリックと人生』大修館書店)
- Lakoff, George (1987) *Women, Fire, and Dangerous Things*. The University of Chicago Press. (池上嘉彦、河上誓作、辻幸夫、西村義樹 (訳) 1993. 『認知意味論: 言語から見た人間の心』紀伊国屋書店)